

2022 年度 (令和 4 年度)

専門学校 社会医学技術学院

理学療法学科 昼間部

2022 年度 (令和 4 年度)

目次

教育理念・教育目標・3つのポリシー

教育理念・教育目標	1
・3つのポリシー	

1 年 生

《基礎分野》

基礎力養成講座	2
情報社会と情報リテラシー	3
バイオメカニクス	4
医療コミュニケーション論Ⅰ	5
生命倫理学	6
現代社会と社会保障	7

《専門基礎分野》

解剖学Ⅰa	8～9
解剖学Ⅰb	10～11
解剖学Ⅱa	12
解剖学Ⅱb	13
生理学Ⅰa	14
生理学Ⅰb	15
生理学Ⅱa	16
生理学Ⅱb	17
人間発達学	18
運動学Ⅰ	19
運動学Ⅱ	20
リハビリテーション医学	21
臨床心理学	22
リハビリテーション概論	23

《専門分野》

理学療法概論	24
理学療法演習Ⅰ	25
フィジカルアセスメント	26
理学療法評価学Ⅰa	27
理学療法評価学Ⅰb	28
物理療法学Ⅰ	29
生活環境支援理学療法学	30
臨床見学実習	31

2 年 生

《基礎分野》

医療コミュニケーション論Ⅱ	32
---------------	----

《専門基礎分野》

運動学演習	33
病理学概論	34
臨床神経学	35～36
整形外科Ⅰ	37
整形外科Ⅱ	38
臨床内科学Ⅰ	39
臨床内科学Ⅱ	40
社会医学	41
臨床運動学	42～43

《専門分野》

理学療法演習Ⅱ	44
理学療法演習Ⅲ	45
理学療法評価学Ⅱa	46
理学療法評価学Ⅱb	47
理学療法評価学Ⅲ	48
理学療法臨床推論	49
運動療法学	50
運動器系理学療法学	51～52
中枢神経系理学療法学Ⅰ	53～54
発達系理学療法学	55
神経筋系理学療法学	56
物理療法学Ⅱ	57

日常生活活動論	・・・	58～59
義肢装具学	・・・	60～61
地域理学療法論	・・・	62
臨床実習Ⅰ	・・・	63
臨床実習Ⅱ	・・・	64

3 年 生

《基礎分野》

問題解決のための研究法	・・・	65
-------------	-----	----

《専門基礎分野》

疾病管理論	・・・	66
精神医学概論	・・・	67
保健医療福祉連携論	・・・	68

《専門分野》

理学療法演習Ⅳ	・・・	69
理学療法演習Ⅴ	・・・	70
理学療法管理学	・・・	71
中枢神経系理学療法学Ⅱ	・・・	72
日常生活活動論演習	・・・	73
義肢装具学演習	・・・	74
内部系理学療法学	・・・	75～76
高齢期理学療法学	・・・	77
理学療法技術論	・・・	78
臨床実習Ⅲ-A	・・・	79
臨床実習Ⅲ-B	・・・	80

★ (をまて資金財人がてまのこ) ーとてりネアロセトマ ★

《教育理念》

本校は、人により添い、生きることを支えるために、専門的知識及び技術を習得するとともに、深い人間愛と高い人間性を涵養し、社会に貢献する理学療法士・作業療法士を育てます。

《教育目標》

1. 人の思いや痛み、苦しみや喜びを共感できる豊かな人間性の育成
2. 多職種と連携して自己の役割を果たせるコミュニケーション能力の育成
3. 人が抱える問題を論理的・創造的に解決できる思考力の育成
4. 科学的根拠に基づいた確かな専門知識・技術の育成
5. 専門職として生涯にわたり学習し、研鑽し続ける意欲の育成

《3つのポリシー》

・アドミッションポリシー（このような人をもとめています）

自分の経験を活かし理学療法士・作業療法士として働く意志を表明し、以下を満たす人

- 1) 情熱を持ち、困難な状況にある人々を積極的に支援しようとする人
- 2) 肯定的な人間観を持ち、人格を尊重できる人
- 3) 論理的な思考ができ学習に熱意がある人

・カリキュラムポリシー（このような教育を行います）

教育目標を達成するために、成長する基礎力ー深く考える力・共感する力・科学する力ーを育む教育

- 1) 個々人の能力に適した方法で提供する、学生中心の教育
- 2) 医療や地域、また対象となる人の生活を考慮した幅広いリハビリテーション分野の教育
- 3) 他（多）職種や、対象となる人に関わる人々と連携するために必要な教育

★ ディプロマポリシー（このような人材を育てます） ★

リハビリテーションの理念のもと、対象となる人は生活者であることを理解し適切なサービスを提供できる人材

- 1) 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人…DP1
- 2) 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人…DP2
- 3) 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人…DP3
- 4) 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人…DP4

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	基礎力養成講座				
担当者氏名	小島 肇				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

ディプロマポリシーで掲げる理学療法士養成への円滑な導入を図るために、社医学での学生生活上のマナー、スタディスキルを学ぶこと。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

野矢茂樹『増補版 大人のための国語ゼミ』。筑摩書房 2018。
滝浦真人、草光俊雄『日本語アカデミックライティング』。放送大学教育振興会 2017。

《目標行動(SBO)》

1. 本校が求める学生生活上のマナーを習得できる。 2. 本校で求められるスタディスキルを習得できる。

《学生の留意点》

「ことば」、「問い」、「考える」の3つをキーワードに、本校での職業教育の導入を図る科目です。対話を通して、学びとは何か、手を、頭を動かしながら考えていきましょう。

《成績評価の方法》

課題 60点 4点×15回、
レポート 40点 20点×2本： 説明文、読書感想文

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験から臨床現場に即した授業を展開します。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション, マナー, 学習管理システム	本コースの目的, 目標, 成績評価について, 挨拶の作法, 「Google Classroom」の使い方。
2	「ことば」①	文章の種類。
3	「ことば」②	主観的な文章とは何だろう。
4	「ことば」③	客観的な文章とは何だろう。
5	「問い」①	授業の構造を知り, 「問い」を考えよう。
6	「問い」②	グループ学習を学ぼう。
7	「問い」③	チームビルディングとは何か。
8	「問い」④	生理学をグループで勉強しよう。①
9	「問い」⑤	生理学をグループで勉強しよう。②
10	「考える」①	絵をみて鑑賞し合おう。
11	「考える」②	論理的思考を学び, 患者の問題解決の基本を理解しよう。
12	「考える」③	レポートの書き方を学ぼう。
13	「考える」④	自分を見つめ, 自分を知ろう。 ストレスマネジメントの方法を体験しよう。
14	「考える」⑤	ハラスメントを考えよう。
15	まとめ	ふりかえりの意義を理解し, 本コースを振り返ろう。

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	情報社会と情報リテラシー				
担当者氏名	和島 英明、村上 知也、沼尾 拓				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GI0)》

私たちの生活を取り巻く「情報社会」の現状を理解し、正しい情報収集方法、情報の吟味、情報セキュリティ、また情報を取り扱うスキルとマナーなどについて理解する。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

必要に応じて提示する

《目標行動(SB0)》

- 1) 社会生活の中の「情報」の基本的意義を説明できる。
- 2) 情報社会(SNS, 情報マナー, 情報セキュリティ等)の現状と正しい取り扱い方法を説明できる。
- 3) 情報収集した内容をパワポでまとめることができる。
- 4) 「統計」の基本と活用法について説明できる。

《学生の留意点》

本科目の内容を十分理解し、日常の情報の正しい取り扱いに活かしてほしい。

《成績評価の方法》

課題評価(100%)

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における中小企業診断士、理学療法士としての実務経験を、情報リテラシーという観点から授業内容に活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	情報リテラシー①	Googleクラスルームの「ドキュメント」など(和島)
2	情報リテラシー②	Googleクラスルームの「スプレッドシート」など(和島)
3	情報リテラシー③	Googleクラスルームの「スライド」など(和島)
4	情報シテラシー④	医学文献の見方・調べ方(和島)
5	情報力とは	情報力とは(村上)
6	数字を読む力～数字に騙されないために～	数字を読む力(村上)
7	今どきのIT①	AI, IoT, RPA等について(村上)
8	今どきのIT②	SNS, 情報マナー, セキュリティ等について(村上)
9	情報収集と整理力	アナログとデジタルでの収集, フレームワーク(村上)
10	思考力	思考法の種類と実践(村上)
11	統計とは	統計の必要性, 考え方(沼尾)
12	臨床と統計	EBPTや研究における統計の活用, 論文の読み方(沼尾)
13	基本統計量	基本的な統計用語, 統計量の定義(沼尾)
14	データの視覚的表示	ヒストグラム, 棒グラフ, 散布図, など(沼尾)
15	データと分布	母集団, 標本, 正規分布, など(沼尾)

科目名	バイオメカニクス				
担当者氏名	坂田 晋一				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

身体の運動について、基礎となる力学的な考え方を身につける。

《テキスト》

①中村隆一ら：『基礎運動学』，第6版補訂，医歯薬出版，2012年。

《参考図書》

山本澄子他著：『基礎バイオメカニクス 第2版』，医歯薬出版 2015年，小野文久著：『初歩の物理』，裳華房 2008年
勝平純司他著：『介助にいかすバイオメカニクス』，医学書院 2011年，江原義弘，山本澄子，中川昭夫：『PT・OT・PO 身体運動の理解につなげる物理学』，南江堂，2015。

《目標行動(SBO)》

1. 「運動の法則」を説明できる
2. 「生体におけるテコ」を理解できる
3. 「重心」を求めることができる
4. 「床反力」を説明できる
5. 「関節モーメント」を理解できる
6. 「立ち上がり」を力学から説明できる
7. 「歩行」を力学から説明できる

《学生の留意点》

中・高校の知識から「運動学」への展開を図る科目です。日常生活のなかの「物体の運動」から「身体運動」の理解へと発展させます。身近な物体やヒトの「動き」を注意深く観察する習慣を身につけましょう。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記）100%。1～9回をオンデマンド型授業、10～15回を対面講義とさせていただきます。オンデマンド講義は毎回の視聴と課題提出が期末試験受験のための条件となります。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し，その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	概要	オリエンテーション，人体における方向・位置の表現、運動の面と軸、代表的な骨と関節と筋
2	導入	骨と関節の運動，たるみと張力（高校物理）
3	導入	運動の観測，運動学的分析（クロールの動きを真似して再現してみたり、上手にできるように教えあってみよう）
4	運動の法則①	力の合成と分解
5	生体におけるテコ①	生体におけるテコ①（少ない力で効果的に働いてこを体験してみよう）
6	姿勢	良い座位姿勢と立位姿勢 位置エネルギーと運動エネルギー（高校物理）
7	重心	重心の求め方（臥位姿勢と座位姿勢の重心の位置を体圧分析装置で体験しよう）
8	外力	床反力，床反力作用点 作用反作用の法則（高校物理）
9	内力	関節モーメントと筋活動
10	不良姿勢	悪い姿勢の体験（筋肉が痛くなる体験を外力と内力の観点から考えてみよう）
11	バイオメカニクスの応用①	「立ち上がり」（支持基底面が狭くなり、重心が高くなることを実感し、足の主動作筋を明らかにしよう）
12	バイオメカニクスの応用②	「床からの起き上がり」（支持基底面が狭くなり、重心が高くなることを実感し、手や体幹の主動作筋を明らかにしよう）
13	バイオメカニクスの応用③	「歩行」（正常歩行を再現してみよう）
14	バイオメカニクスの応用④	「異常歩行」（関節を制限したり、筋肉を使わない悪い姿勢を真似て歩くことで起こる変化を考えよう）
15	まとめ	まとめ

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	医療コミュニケーション論 I				
担当者氏名	沼尾 拓、山本 千夏				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

社会人として適切なコミュニケーション能力を身に着けた上で、リハビリテーション専門職としての選択的なコミュニケーション能力がどのようなものを把握する。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

特に指定しない

《目標行動(SBO)》

1. 社会人としてのコミュニケーション能力とは何かを説明できる。
2. 他者の考えを正確に理解することができる。
3. 他者に自分の考えを正確に伝えることができる。
4. 上記1～3について、医療現場におけるものの違いを理解できる。

《学生の留意点》

医療人としてのマナーや、外部施設とのかかわりを持つうえでの留意点を学んでいきます。社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、適切な立ち振る舞いが実践できるような意識で臨んでください。

《成績評価の方法》

提出課題 100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容になっている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コース・オリエンテーション	コミュニケーションとは
2	コミュニケーションの要素	第一印象について
3	コミュニケーションの要素	他者の言うことを理解するとは
4	コミュニケーションの要素	他者に自分の考えを伝えるとは
5	コミュニケーションの要素	関係性とは
6	コミュニケーションマナーについて	言葉遣い、メール
7	医療職としてのコミュニケーション	第一印象とは
8	医療職としてのコミュニケーション	相手の言うことを理解するとは。共感、傾聴
9	医療職としてのコミュニケーション	相手に自分の考えを伝えるとは
10	医療職としてのコミュニケーション	医療における信頼関係
11	1, 2年合同	ロールプレイ
12	1, 2年合同	ロールプレイ
13	1, 3年合同	ロールプレイ
14	1, 4年合同	ロールプレイ
15	まとめ	実践につなげるコミュニケーション能力

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	岡崎 史子				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

プロフェッショナルの基礎としての人間性を涵養するために、生命倫理的課題を多角的に検討し、生命の尊厳について深く考察できる。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

必要に応じて提示する

《目標行動(SBO)》

生命倫理を健康・病気・医療から、生殖技術、移植医療、安楽死、障害など、現代の倫理課題までを多角的(科学的エビデンス、ナラティブなど)な視点で考え、自らの言葉で発表し、討論できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末筆記試験60点(知識問題30点, 論述15点×2題)
リアクションペーパー40点(毎回授業後, 提出2点, 内容3点, 計8回)

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師としての実務経験を、医療倫理・生命倫理という観点から授業内容に活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	倫理とはなにか。
2	臨床倫理の基本	臨床倫理の考え方とは。
3	遺伝性疾患における倫理	
4	生殖医療 1	
5	生殖医療 2	ここまでの授業をもとにグループワークをして学びを深めます
6	患者医師関係	悪い知らせをどう伝えるのか。インフォームドコンセントとは。
7	安楽死、尊厳死 1	
8	安楽死、尊厳死 2	
9	安楽死、尊厳死 3	ここまでの授業をもとにグループワークをして学びを深めます
10	アドバンスケアプランニング	
11	移植医療 1	生体臓器移植の問題
12	移植医療 2	脳死臓器移植の問題
13	移植医療 3	ここまでの授業をもとにグループワークをして学びを深めます
14	高齢者、認知症	患者や家族と医療従事者との信念対立
15	個人情報と守秘義務	

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	現代社会と社会保障				
担当者氏名	渋谷 智明				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

公的扶助, 社会保険制度など社会保障制度の政策理念、機能など具体的施策の内容を理解するために, 少子高齢化や財政的課題について, 英国など先進諸国制度とも比較・検証し, 安定的な制度設計を考察する。

《テキスト》

掠野美智子・田中耕太郎：『はじめての社会保障～福祉を学ぶ人へ』。有斐閣アルマ。2019年

《参考図書》

必要に応じて提示する

《目標行動(SBO)》

- 1) 社会保障制度の柱である介護・医療保険・年金・雇用保険などの保険制度の枠組みを説明できる。
- 2) 公的扶助の制度設計の基礎になっている財政基盤（保険料と税）の現状を説明できる。
- 3) 地域包括ケアシステムを理解し, 直面している課題・問題を説明できる。

《学生の留意点》

テーマ内容について, 参考書及び関連資料・文献等を基に事前学習をする調査・分析作業を導入します。

《成績評価の方法》

課題100%(最終講義で課す課題レポートを中心に評価、1~14回の課題も評価の対象とします)

《実務経験のある教員による科目》

本科目は, 社会保障制度に熟知した講師が担当し, その実務経験をいかした講義内容としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	欧米の現行社会保障制度の現状の中で, 日本の社会保障制度の位置づけと, どのように機能し, またどのような課題を抱えているのかを概説する
2	社会保障の概念整理	サービスの形態と社会のセーフティネットとしての社会保障
3	社会保障の柱	公的扶助, 社会福祉制度と社会保険制度
4	社会福祉	児童, 母子, 高齢者
5	社会福祉	障害者自立支援制度
6	公的扶助（生活保護）	
7	公的介護保険制度①	予防給付の導入
8	公的介護保険制度②	地域包括ケア
9	公的介護保険制度③	給付と負担
10	医療保険制度①	被用者保険と統合
11	医療保険制度②	国民健康保険と後期高齢者医療保険
12	公的年金制度	社会保険方式と租税方式とのあり方
13	雇用保険制度	社会の変容と非正規雇用, 高齢者雇用のあり方
14	労働者災害補償保険	ブラック企業と過労死, 労災認定, 戦前・戦後の制度的変遷
15	まとめ	日本の社会保障制度の歴史. 社会保障制度をめぐる代表的な制度改革論争の検証. 社会保障の安定的かつ持続的運営システムに関する提言. 今後の展望.

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅰa				
担当者氏名	川上 速人				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、骨学、関節韧带学、筋学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版，文光堂，2012年。

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』，廣川書店，2013年。
横地千俣：『カラーアトラス 人体一解剖と機能』，医学書院，2013年。

《目標行動(SBO)》

1. 全身の骨の種類と構造，発生と成長について説明できる。
2. 全身の関節の構造と種類について説明できる。
3. 筋の分類と作用，補助装置，上肢の筋について説明できる。

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失することのないよう真摯な態度で接すること。

《成績評価の方法》

中間試験および期末試験

《実務経験のある教員による科目》

解剖学教室の外來講師による講義形式で実施する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	解剖学総論	解剖学の概要，解剖学用語
2	〃	〃
3	骨学総論	骨の種類と構造，骨の発生と成長
4	〃	〃
5	骨学各論	体幹の骨格（脊柱）
6	〃	〃
7	〃	体幹の骨格（胸郭）
8	〃	〃
9	〃	上肢の骨格
10	〃	〃
11	〃	下肢の骨格
12	〃	〃
13	〃	頭蓋の骨格
14	〃	〃
15	〃	復習

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学 I a				
担当者氏名	川上 速人				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、骨学、関節靱帯学、筋学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012年。

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013年。

横地千俣：『カラーアトラス 人体ー解剖と機能』、医学書院、2013年。

《目標行動(SBO)》

1. 全身の骨の種類と構造、発生と成長について説明できる
2. 全身の関節の構造と種類について説明できる
3. 筋の分類と作用、補助装置、上肢の筋について説明できる

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失することのないよう真摯な態度で接すること。

《成績評価の方法》

中間試験および期末試験

《実務経験のある教員による科目》

解剖学教室の外来講師による講義形式で実施する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	関節靱帯学総論	関節の一般構造と種類
2	〃	〃
3	関節靱帯学各論	体幹、上肢の関節
4	〃	〃
5	〃	下肢の関節
6	〃	〃
7	筋学総論	筋の分類と作用、筋の補助装置
8	〃	〃
9	筋学各論	頭頸部の筋
10	〃	〃
11	〃	上肢帯の筋
12	〃	〃
13	〃	上肢の筋
14	〃	〃
15	〃	復習

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅰb				
担当者氏名	川上 速人				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、筋学、内臓学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版。文光堂。2012年。

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』。廣川書店。2013年。〔準教科書扱い〕
横地千仞：『カラーアトラス 人体－解剖と機能』。医学書院。2013年。

《目標行動(SBO)》

1. 体幹、下肢の筋について説明できる。
2. 内臓全般（消化器、循環器、呼吸器、泌尿器、生殖器、感覚器）の構造と配置について説明できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

中間試験および期末試験

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、理学療法士が一部助手に入り、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	筋学各論	体幹筋
2	〃	〃
3	筋学各論	下肢帯の筋
4	〃	〃
5	筋学各論	下肢の筋
6	〃	〃
7	内臓学総論	内臓の一般的構造と体内における配置
8	〃	〃
9	内臓学各論	消化器系
10	〃	〃
11	〃	消化器付属腺
12	〃	〃
13	〃	循環器系（心臓と血管）
14	〃	〃
15	〃	循環器系（リンパ系）

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅰb				
担当者氏名	川上 速人				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、筋学、内臓学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012年。

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、

2013年。〔準教科書扱い〕

横地千似：『カラーアトラス 人体－解剖と機能』、医学書院、2013年。

《目標行動(SBO)》

1. 体幹、下肢の筋について説明できる
2. 内臓全般（消化器、循環器、呼吸器、泌尿器、生殖器、感覚器）の構造と配置について説明できる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

中間試験および期末試験

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、理学療法士が一部助手に入り、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	内臓学各論	循環器系（リンパ系）
2	〃	呼吸器系
3	〃	〃
4	〃	内分泌系
5	〃	〃
6	〃	感覚器系（眼、耳）
7	〃	〃
8	〃	感覚器系（皮膚、味覚、嗅覚）
9	〃	〃
10	〃	泌尿器系、男性生殖器
11	〃	〃
12	〃	女性生殖器
13	〃	〃
14	〃	発生学
15	〃	〃

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅱa				
担当者氏名	高見 茂				
授業方法	講義・演習	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、神経系について学ぶ。

《目標行動(SBO)》

1. 神経系についての解剖学用語を説明できる。
2. 末梢神経系の基本構造と名称を、機能と関連付けて説明できる。
3. 中枢神経系の基本構造と部位名を機能と関連付けて説明できる。
4. 主な神経路について、その線維連絡と機能の概要を説明できる。
5. 神経系の断層解剖の概略を説明できる。
6. 神経系の表層解剖の概要を説明できる。

《成績評価の方法》

中間試験および期末試験

《テキスト》

野村 巖：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学、第5版』、医学書院、2010年。

《参考図書》

W. Platzer, 他著、平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012年。井上貴央 監訳：『カラー人体解剖学—構造と機能：ミクロからマクロまで』、西村書店、2003年。P. W. Tank, T. R. Gest 著、佐藤達夫訳：『あたらしい解剖学アトラス』、MEDSI、2009年。

《学生の留意点》

学名(和名)を正確に書けること、脳などの三次元(立体)的構造を把握すること。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、理学療法士が一部助手に入り、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	神経系概論	神経系の区分、神経系の構成と組織学、髄膜と脳室系、神経系の発生
2	中枢神経系 (1)	脊髄：外形と断面、脳幹：延髄、橋、中脳、網様体
3	中枢神経系 (2)	小脳：外形と区分、小脳脚、内部構造、大脳：間脳、終脳(大脳半球)
4	中枢神経系 (3)	神経路：上行性神経路、下行性神経路
5	末梢神経系 (1)	脊髄神経：頸神経、頸神経叢、腕神経叢
6	末梢神経系 (2)	脊髄神経：胸神経、腰神経、腰神経叢、仙骨神経、仙骨神経叢、尾骨神経叢
7	末梢神経系 (3)	脳神経：嗅神経、視神経、動眼神経
8	末梢神経系 (4)	脳神経：滑車神経、三叉神経、外転神経
9	末梢神経系 (5)	脳神経：顔面神経、内耳神経
10	末梢神経系 (6)	脳神経：舌咽神経、迷走神経
11	末梢神経系 (7)	脳神経：副神経、舌下神経
12	末梢神経系 (8)	交感神経系、副交感神経系、壁内腸神経系
13	神経系の断層・表層解剖	中枢、末梢神経系の断層解剖、体表解剖と末梢神経の触察法
14	化学的神経解剖学	コリン作動系、モノアミン作動系：ドーパミン作動系、ノルアドレナリン作動系、他
15	理学療法との関連事項	神経系障害との関わり、中枢神経系の障害、末梢神経系の障害(ニューロパシー)

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅱb				
担当者氏名	高見 茂				
授業方法	講義・演習	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、脈管系について学ぶ。

《テキスト》

野村 嶺 編著：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野解剖学、第5版』、医学書院、2020年。

《参考図書》

・W. Platzer 他 著、平田幸男 訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012年。
井上貴央 監訳：『カラー人体解剖学―構造と機能：ミクロからマクロまで』、西村書店、2003年
P. W. Tank, T. R. Gest 著、佐藤達夫 訳：『あたらしい解剖学アトラス』、MEDSI、2009年。

《目標行動(SBO)》

1. 脈管系についての解剖学用語を説明できる。
2. 心臓の基本構造と機能の概要について説明できる。
3. 全身の主な脈管の名称と走行の概要を説明できる。
4. 脈管と神経の局所解剖の概要について説明できる。
5. 脈管系の断層・表層解剖の概要について説明できる。

《学生の留意点》

学名(和名)を正確に書けること。動脈、静脈、リンパ系の分布について、三次元(立体)的に把握すること。

《成績評価の方法》

中間試験および8期末試験

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、理学療法士が一部助手に入り、その実務経験を生かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	脈管系概論	脈管系の組織学、血液循環とリンパ循環、胎生期の血液循環、血液循環の切り替え
2	心臓	外形、内部構造、冠循環、刺激伝導系
3	動脈系(1)	大動脈、頭部、頸部、肩部および上肢の動脈
4	動脈系(2)	胸腹部、骨盤の動脈
5	動脈系(3)	腰部、大腿、下腿の動脈
6	静脈系(1)	大静脈系と皮静脈系
7	静脈系(2)	奇静脈系と門脈系
8	特徴的な血管系	脳に分布する動脈系、腎臓、肝臓、下垂体門脈系、腸間膜
9	リンパ系	リンパ管、リンパ節およびリンパ系器官、リンパ系の構造的特徴
10	局所解剖学からみた血管(1)	神経およびその他の構造との関連、頭頸部
11	局所解剖学からみた血管(2)	神経およびその他の構造との関連、上肢
12	局所解剖学からみた血管(3)	神経およびその他の構造との関連、体幹
13	局所解剖学からみた血管(4)	神経およびその他の構造との関連、下肢
14	脈管系の断層・表層解剖	頭頸部、胸部、腹部および下肢の断層解剖学、表層解剖および血管の触察法
15	理学療法との関連事項	循環器系障害とのかかわり

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学 I a				
担当者氏名	渡辺 圭一				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているのかについて理解を深めるため、「膜電位の発生機序」、「神経細胞の働き」、「体内での情報伝達機能」、「身体を動かす際の中樞神経の働き（生理）及び末梢神経と効果器（筋）の働き」について学ぶ。また、基本的なリハビリテーション医学の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第8版』，文光堂，2017年。

《参考図書》

適宜紹介

《目標行動(SBO)》

1. 神経筋機能について電気特性と物質特性から説明できる。
2. 筋の機能について電気特性と物質特性から説明できる。
3. 身体を動かす際の中樞神経の働き（生理）について説明できる。
4. 身体を動かす際の末梢神経と効果器（筋）の働き（生理）について関係づけることができる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

《成績評価の方法》

筆記試験70%，実習レポート30%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における臨床検査技師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	概論	生理学概論，神経生理学概論
2	細胞機能の基礎	細胞の環境，構造・構造・機能調節
3	細胞機能の基礎②	細胞膜を通過する物質移動
4	細胞機能の基礎③	細胞膜を通過する物質移動
5	活動電位，イオンチャネル	膜電位，興奮発生と膜電流，イオンチャネルの機能と構造
6	神経の基本・興奮伝導について	神経線維の構造，跳躍伝導，興奮伝導の特徴（興奮伝導の3原則），神経線維の種類
7	骨格筋について	筋の基本的機能，筋節（サルコメア），筋フィラメント（アクチン，ミオシンについて）調節タンパク質（トロポニン，トロポミオシンについて）
8	骨格筋について（その2）	筋小胞体とT管（横行小管），Ca ²⁺ による筋収縮の開始（筋の収縮），等尺性収縮と等張性収縮，筋収縮の基本の型，神経支配比，筋収縮のエネルギー
9	興奮の伝達と抑制	興奮の伝達と抑制，シナプスについて，神経筋伝達，神経筋接合部の伝達
10	自律神経系①	自律神経系との構成と作用，自律神経系の受容体①
11	自律神経系②	自律神経系の受容体②
12	運動系①	脊髄について，脳幹について
13	運動系②	小脳について，大脳基底核について①
14	運動系③	大脳基底核について②，
15	運動系④	運動系①～③までまとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学Ⅰb				
担当者氏名	渡辺 圭一				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかについて理解を深めるために「感覚機能および脳の統合機能が関与する生命機能」について学ぶ。また、基本的なリハビリテーション医学の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第8版』，文光堂，2017年。

《参考図書》

適宜紹介

《目標行動(SBO)》

1. 感覚機能の点からヒトの生命機能を説明できる。
2. 脳の統合機能の点から人の生命機能を説明できる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

《成績評価の方法》

筆記試験70%，小テスト20%，課題10%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における臨床検査技師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	運動系⑤	大脳皮質について
2	感覚生理学総論・体性感覚①	感覚系神経システムの理解
3	体性感覚②	感覚の強度，体性感覚と受容器，体性感覚の伝導路・中継核①
4	味覚、嗅覚	体性感覚の伝導路・中継核②，大脳皮質の体性感覚野，痛覚，痒み
5	聴覚	味覚，（味覚系、満腹、摂食中枢、嚥下）嗅覚
6	前庭感覚	音の性質と聴力，伝音機構，内耳の音受容，聴覚の中枢
7	視覚①	前庭器官の構造と機能，前庭系の神経回路
8	視覚②	眼球の光学系，網膜の光受容，視覚の中枢神経機序
9	感覚器	感覚としての視覚，眼球運動，演習
10	脳の統合機能①	感覚器（1～8回）のまとめ
11	脳の統合機能②	大脳皮質の構造と機能
12	脳の統合機能③	大脳辺縁系と視床下部
13	脳の統合機能④	脳の情動，行動を調節する伝達物質，脳波，演習（脳波について），覚醒と睡眠
14	脳の統合機能⑤	学習と記憶
15	脳の統合機能⑥	脳の統合機能（10～14回）のまとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学Ⅱa				
担当者氏名	広瀬 智道				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

生理学は臨床医学各分野の基幹となる学問領域である。
生理学は人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、人体の各種臓器の機能、役割について学び、合目的性として生体恒常性の機序を理解するもので、臨床医学への出発点となるものである。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第8版』。文光堂。2017

《参考図書》

佐藤昭夫他：『人体の構造と機能』。医歯薬出版。2015

《目標行動(SBO)》

1. 体液、血液の役割と機序を説明できる。□ 2. 心臓、血管の循環系の役割と機序を説明できる。□ 3. 生体防御機構免疫系の役割と機序を説明できる。□ 4. 呼吸・酸塩基平衡の役割と機序を説明できる。□ 5. 体温調節と生体リズムの役割と機序を説明できる。□

《学生の留意点》

今話題の最新医学や健康情報について、生理学的知識で精査してみましよう。臨床医学と生理学をより身近なものとして理解を深めることができます。臨床医学に貢献できるように、高度な医学知識、深い考察力と高い生命倫理観を目指しましょう。

《成績評価の方法》

小テスト・中間テスト・期末テスト・レポート課題等を総合的に評価する。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における獣医師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	体液	生命現象の本態、ホメオスタシス、体液の役割、体液の組成、ミネラルの働き
2	体液	水分の生理機能、体液量の調節、脱水、浮腫、カルシウムの吸収と代謝
3	血液	血液の成分と機能、血液の物理化学的特性、血液の成分、造血と造血因子
4	血液	赤血球の形状と機能、赤血球の新生と破壊、ヘモグロビンの働き、貧血
5	血液	白血球、血小板、血漿の形状と機能、血液凝固作用、血小板血栓、二次血液凝固
6	血液	ABO式血液型、RH式血液型、赤血球の凝集反応、凝集原（抗原）凝集素（抗体）
7	免疫	非特異的防御機構、特異的防御機構、免疫機構、リンパの働き、アレルギー
8	循環	体循環、肺循環、心臓の構造と機能、心筋の特性、刺激伝導系
9	心臓	心周期、心音、心拍数の調節、心臓の神経支配、心筋の電気現象と心電図
10	血管	動脈・静脈・毛細血管の特徴、血管の自律神経、冠循環、脳循環、腹腔内循環
11	血管	血圧の調節要因、局所性調節、ホルモン調節、リンパ管の構造と機能
12	呼吸	換気の仕組み、気道、肺の構造と機能、呼吸筋と呼吸運動、肺胞換気量
13	呼吸	肺におけるガス交換、酸素・二酸化炭素の運搬、呼吸による体液の酸塩基平衡
14	呼吸	呼吸に影響を与える因子、呼吸調節作用、呼吸中枢、特殊環境の呼吸への影響
15	体温	体温の調節、体熱の産生、基礎代謝量、体熱の放散、体温調節中枢、日内変動

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学Ⅱb				
担当者氏名	広瀬 智道				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

生理学は臨床医学各分野の基幹となる学問領域である。
生理学は人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、人体の各種臓器の機能、役割について学び、合目的性として生体恒常性の機序を理解するもので、臨床医学への出発点となるものである。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第8版』。文光堂。2017

《参考図書》

佐藤昭夫他：『人体の構造と機能』。医歯薬出版。2015年。

《目標行動(SBO)》

1. 消化・吸収の役割とその機序を説明できる。
2. 栄養とエネルギーの役割とその機序を説明できる。
3. 泌尿器系の役割とその機序を説明できる。
4. 内分泌の役割とその機序を説明できる。
5. 生殖器系の役割とその機序を説明できる。
6. 成長と老化の生理作用とその機序を説明できる。

《学生の留意点》

今話題の最新医学や健康情報について、生理学的知識で精査してみましょう。臨床医学と生理学をより身近なものとして理解を深めることができます。

《成績評価の方法》

小テスト・中間テスト・期末テスト・レポート課題等を総合的に評価する。

臨床医学に貢献できるように、高度な医学知識、深い考察力と高い生命倫理観を目指しましょう。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における獣医師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	復習	前期講義内容の再確認
2	消化	口腔内消化、咀嚼・嚥下、唾液による消化、胃内消化、消化液の分泌調節作用
3	消化	小腸の構造と機能、小腸壁の構造、小腸の運動、小腸における消化
4	吸収	栄養素の分解と吸収、肝臓の構造と機能、膵臓の構造と機能、胆嚢・胆道の機能
5	排便	大腸の構造と機能、大腸の運動と分泌、胃大腸反射、排便中枢、肛門括約筋の作用
6	代謝	物質代謝、炭水化物代謝、脂質代謝、タンパク代謝、核酸代謝、ビタミン代謝
7	腎臓	腎臓の構造と機能、ネフロン構造、糸球体濾過、尿細管の働き、再吸収と分泌
8	腎臓	腎機能の測定、腎血流量、腎血漿流量と糸球体濾過量、腎クリアランス
9	排尿	尿管・膀胱・尿道の構造と機能、膀胱と尿道の神経支配、蓄尿、排尿反射
10	内分泌	ホルモンの化学的性質、ホルモンの受容器、ホルモンの機序、ホルモンの分泌調整
11	内分泌	視床下部ホルモン、下垂体前葉ホルモン、下垂体中葉ホルモン、下垂体後葉ホルモン
12	内分泌	甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、膵臓ホルモン、副腎皮質・髄質ホルモン
13	生殖	排卵、月経、妊娠のホルモン、精巣・精巣上体の構造と機能、勃起、射精
14	老化	細胞の寿命と再生、生理的老化の特徴、身体機能の加齢変化、脳死、QOL、死の三徴候
15	復習	後期講義内容の再確認

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	人間発達学				
担当者氏名	山中 陽子				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

対象者の発達過程を考慮しながら対応できるようになるために、人の生得的な能力を知り、また代表的な各領域の発達段階における特徴を学ぶ

(※「各領域」とは、運動機能、認知機能、心理・社会性機能等を示す)

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

授業の中でその都度紹介します

《目標行動(SBO)》

1. 人の発達段階の特徴について各領域に分けて説明できる
2. 発達障害について説明できる
3. 各ライフステージにおける発達の特徴について説明できる

《学生の留意点》

テキストは用いません。基本的に毎回プリントを配布いたします。

講義のほか、授業内で数回の心理検査を実施する予定です。

《成績評価の方法》

期末筆記試験80%レポート20%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、臨床心理士が担当し、その実務経験を活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	生涯発達という考え方 発達段階と発達課題
2	発達理論	さまざまな発達理論 (ピアジェ・エリクソンなど)
3	胎児期	胎児の発達 子どもの行動発達
4	新生児期	出生後からの発達 (愛着を中心に) 子どもの言語発達
5	乳幼児期	幼児期における心理的発達 愛着について
6	児童期 (1)	認知発達段階の把握 学習・記憶の発達
7	児童期 (2)	ギャング・エイジの理解 道徳的判断の発達
8	児童期 (思春期)	身体の成長と心の成長 (青年期への移行) 恋愛の発達
9	青年期	アイデンティティ (自我同一性) とモラトリアムの理解
10	成人期	成人期における発達 職業の選択 結婚と子育て
11	成人期 (中年期)	中年期危機 次世代を育てる
12	老年期	エイジズム 老年期の発達変化 認知症
13	発達の遅れ (1)	発達障害とは
14	発達の遅れ (2)	発達検査の使い方、役立て方
15	まとめ	

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学 I				
担当者氏名	小宮山 一樹				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では健康な人の身体のしくみに関する知識を身につける。 ○ DP2- に育つためのリハビリテーションに関する基礎的な知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

理学療法治療技術論への学習の基礎とするために、上肢・体幹の機能解剖及び、呼吸、循環、代謝の基本的知識を習得する。

《目標行動(SBO)》

1. 関節構造や筋活動の特性を踏まえて身体運動が説明ができる。
2. 上肢・体幹の構造と運動が説明できる。
3. 体幹、肩関節、肘関節、手関節の運動学的特徴を説明できる。
4. 運動学としての呼吸・循環・代謝の仕組みを説明できる

《成績評価の方法》

期末試験 筆記100%

《テキスト》

中村隆一他：『基礎運動学 第6版補訂』。医歯薬出版。2012。
 平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版。文光堂。2012。

《参考図書》

嶋田智明他訳：『筋骨格系のキネシオロジー』。医歯薬出版。2012。
 塩田悦二訳：『カパンジー機能解剖学Ⅱ』。医歯薬出版。2010。
 勝田茂編著：『入門運動生理学』。杏林書院。2015。

《学生の留意点》

解剖、生理学に基づいた専門的内容が多くなる。解剖学各回の復習を欠かさず授業に臨むこと。教材室にある骨標本・筋模型を利用して、具体的に理解することにつとめること。毎回教材備品を授業開始までに準備すること必要に応じて自らの身体を実際に動かして積極的に学習すること。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を機能解剖の知識獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	運動学概要、筋骨格系における力について
2	骨学総論	人体関節の基本構造と機能について、運動の軸について、副運動について、
3	骨学総論	基本運動方向表現について
4	筋学総論	筋収縮の様式と運動について
5	筋学総論	張力-長さ曲線と運動
6	脊柱の機能解剖	脊柱の構造と各部位の運動学的特徴について
7	頸部の機能解剖	軸椎関節および環椎後頭関節の運動について、頸部の運動と筋活動について
8	胸腰部の機能解剖	姿勢と椎間板内圧について、胸椎、腰椎の関節運動
9	呼吸・循環の運動学	胸式呼吸、腹式呼吸の仕組み 循環動態と運動の関連性
10	肩・肩甲帯の機能解剖	肩関節複合体について、フォースカップル作用について、肩甲上腕リズムについて
11	肩・肩甲帯の機能解剖	肩関節の安定性について、機能的肢位について、ゼロポジションについて
12	肘・前腕の機能解剖	肘関節複合体について、生理的外反について
13	肘・前腕の機能解剖	回内・回外の軸、前腕骨間膜の役割について
14	手・手指の機能解剖	手関節複合体について、手関節の運動について、指背腱膜と伸筋について
15	運動と代謝	運動とエネルギー代謝について

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学Ⅱ				
担当者氏名	佐々木 亮平				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では健康な人の身体のしくみに関する知識を身につける。 ○ DP2- に育つためのリハビリテーションに関する基礎的な知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

理学療法評価や治療技術論への学習の基礎とするために、理学療法士に最低限必要な「下部体幹から足部までの運動学」と「運動の中樞神経機構」を学ぶ。

《テキスト》

中村隆一他：『基礎運動学 第6版補訂』，医歯薬出版，2017年。
 平田幸男訳：『解剖学アトラス』，文光堂，2012年。

《参考図書》

嶋田智明他訳：『筋骨格系のキネシオロジー』，医歯薬出版，2018年。
 塩田悦二訳：『カパンジー機能解剖学Ⅱ 下肢』，医歯薬出版，2019年。

《目標行動(SBO)》

1. 骨盤の構造と運動を説明することができる
2. 股・膝・足関節の構造と運動を説明することができる
3. 関節に係る力と安定化機構を説明することができる
4. 運動の中樞神経機構について説明できる
5. 代表的な運動制御理論について説明できる

《学生の留意点》

基幹科目の一つです。予習・復習を十分にしながら確実に理解を進めてください。

《成績評価の方法》

期末試験（100％）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し，その実務経験を活かし「理学療法評価や治療技術論への学習の基礎となるような運動学事項の理解」を目指す

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	骨盤の構造と運動表現	コースオリエンテーション／骨盤の剖学的理解と運動方向表現
2	骨盤と姿勢(上行性運動連鎖)	骨盤の運動と姿勢との関係
3	骨盤と姿勢(下行性運動連鎖)	骨盤の運動と股関節との関係
4	股関節の構造と機能_1	股関節の解剖学的理解と重要な角度
5	股関節の構造と機能_2	股関節の構造と機能／靭帯機構と筋作用
6	股関節の構造と機能_3	股関節の安定化機構
7	膝関節の構造と機能_1	膝関節の解剖学的理解と運動／靭帯機構と筋作用
8	膝関節の構造と機能_2	膝関節の静的安定化機構
9	膝関節の構造と機能_3	膝関節の動的安定化機構
10	足関節・足部の構造と機能_1	足関節足部の解剖学的理解と運動表現
11	足関節・足部の構造と機能_2	足関節足部に特有な関節軸と複合された運動の理解
12	足関節・足部の構造と機能_3	足関節足部の筋解剖学／足アーチの機能
13	運動の中樞神経機構_1	運動のプランニングからプログラミングそして実行まで
14	運動の中樞神経機構_2	運動のフィードフォワードとフィードバック制御機構
15	運動の中樞神経機構_3	運動制御理論／歩行の中樞／中樞パターン生成機構(CPG)

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	リハビリテーション医学				
担当者氏名	関 勝				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために必要なリハビリテーション医学の主な疾患概念・病態・検査・診断と治療・予防等における基礎知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

理学・作業療法に展開するために、リハビリテーション医学の概念と各障害に対する基本的原則を学ぶ

《テキスト》

三上真弘：『リハビリテーション医学テキスト改訂第4版』、南江堂、2016年

《参考図書》

講義内で提示します。

《目標行動(SBO)》

1. 各障害の生じる病態・疫学・予後を記述できる
2. 各障害の診断法・医学的治療を説明できる。
3. 各障害に対する病期に応じたリハビリテーションを説明できる。
4. 各障害の特徴を列挙できる。

《学生の留意点》

正しい医学知識を身につけ、臨床での応用を常に念頭において勉強して欲しい。

《成績評価の方法》

筆記試験

《実務経験のある教員による科目》

本科目は医師が担当し、その実務経験を授業内容の講義にいかした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	脳障害1	脳卒中・頭部外傷等の障害学
2	脳障害2	急性期のリハビリテーション
3	脳障害3	慢性期のリハビリテーション
4	脊髄損傷1	病態総論、診断法、合併症
5	脊髄損傷2	急性期のリハビリテーション
6	脊髄損傷3	慢性期のリハビリテーション
7	関節リウマチ1	疾患の概要・障害像、診断と評価その1
8	関節リウマチ2	診断と評価その2、リハビリテーション
9	神経・筋疾患1	パーキンソン病、脊髄小脳変形症
10	神経・筋疾患2	多発性硬化症、ALS、筋ジストロフィー
11	骨・関節疾患	変形性関節症等
12	切断1	総論、切断と義肢
13	切断2	切断のリハビリテーション
14	循環器・呼吸器	心機能及び呼吸機能障害のリハビリテーション
15	小児リハ	小児のリハビリテーション、その他

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床心理学				
担当者氏名	杉村 夕				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

対象者の心理的特徴や心的作用を考慮しながら実際場面で対応できるようになるために、臨床心理学の基本的理論、検査法、心理療法などを学ぶ。

《テキスト》

特になし

《参考図書》

授業の中でその都度紹介します。

《目標行動(SBO)》

1. 臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方を説明できる。
2. 代表的な心理検査の種類を列挙し、その特徴と内容について説明できる。
3. 代表的な心理療法について列挙し、その特徴と内容について説明できる。

《学生の留意点》

実際にさまざまな心理検査を実施したり、さまざまな心理療法の基礎を体験してもらったりします。
積極的な授業参加を期待します。

《成績評価の方法》

期末試験100 %

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における臨床心理士としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方	臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方
2	心理アセスメント 面接法、行動観察法	面接法、行動観察法、心理検査法
3	心理検査法①	性格検査（質問紙法）
4	心理検査法②	性格検査（投影法）
5	心理検査法③	性格検査（作業検査法）
6	心理検査法④	知能検査（ウェクスラー式、ビネー式）
7	心理療法①	概論
8	心理療法②	精神分析療法
9	心理療法③	クライエント中心療法
10	心理療法④	行動療法、認知行動療法
11	心理療法⑤	自律訓練法
12	心理療法⑥	その他の心理療法
13	障害者・高齢者の心理障害の受容、その他	ライフサイクルと心理的問題、障害者・高齢者の心理、障害の受容、その他
14	ストレスマネジメント	ストレスマネジメント
15	まとめ	まとめ

《専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリテーションの理念》

科目名	リハビリテーション概論				
担当者氏名	関 勝				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1- となるために本科目では他者に傾聴できる力を身につける。 ○ DP1- となるために人の話を聴き、正しく理解するコミュニケーション力を身につける。 ○ DP2- に育つためのリハビリテーションに関する基礎的な知識を身につける。 ○ DP2- に育つためのリハビリテーション専門職として治療・支援に関する知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

利用者の充実した生活を創造するセラピストとして、多職種と連携できるようになるために必要となる基礎的な知識と考え方を学ぶ

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. リハビリテーション歴史と理念を説明できる
2. リハビリテーションチームにおけるPTの役割を説明できる
3. 利用者の生活の質向上のために何が必要か具体的に考えられる
4. 多職種と連携するために必要な行動をとることができる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験 50% 課題（レポート・ミニツッペーパー・自己評価） 50%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師・理学療法士・作業療法士としての実務経験を、専門分野の観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容	
1	オリエンテーション	本コースの目的・目標 , 内容	〔小島 肇〕
2	リハビリテーションの理念と社会医学技術学院	社会医学技術学院創設者の目指したリハビリテーションとは	〔山田千鶴子〕
3	利用者中心のリハビリテーション1	利用者中心のリハビリテーションとは 事例検討	〔山田千鶴子〕
4	利用者中心のリハビリテーション2	利用者中心のリハビリテーションとは 事例検討	〔山田千鶴子〕
5	利用者中心のリハビリテーション3	利用者中心のリハビリテーションとは 事例検討	〔山田千鶴子〕
6	利用者中心のリハビリテーション4	利用者中心のリハビリテーションとは 事例検討	〔山田千鶴子〕
7	専門職に求められるもの	チームにおける理学療法士・作業療法士の役割と責任	〔浅沼辰志〕
8	障害体験1	利用者の生活を考える 障害体験1	〔OT, PT〕
9	障害体験2	利用者の生活を考える 障害体験2	〔OT, PT〕
10	リハビリテーションの歴史と理念	定義・対称・医療と介護の区分	〔関 勝〕
11	リハビリテーションチーム	専門職の役割とチームアプローチ	〔関 勝〕
12	医学的リハビリテーションⅠ	リハビリテーションにおける評価とその意義	〔関 勝〕
13	医学的リハビリテーションⅡ	機能予後と短期・長期ゴール設定	〔関 勝〕
14	医学的リハビリテーションⅢ	病期別リハビリテーションと治療の基本概念	〔関 勝〕
15	地域リハビリテーション	医療と福祉の連携など	〔関 勝〕

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法概論				
担当者氏名	小宮山 一樹				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2- に育つためのリハビリテーションに関する基礎的な知識を身につける。 ○ DP2- に育つためのリハビリテーション専門職として治療・支援に関する知識を身につける。 ○ DP2- に育つための専門職の仕事内容に関する知識を身につける。 ○ DP2- に育つための専門職の治療・支援に関する知識を身につける。			

《一般教育目標(GI0)》

望ましい理学療法士像を探究するために、理学療法の概要や評価・治療という一連の流れを理解し、医療従事者として必要な知識および職業倫理を身につける

《テキスト》

講義（グループワーク含む）

《参考図書》

必要に応じて授業中にプリントを配布する

《目標行動(SB0)》

1. 理学療法とは何か、その概要を説明することができる
2. 4年間の養成課程における学習の概要を理解し、自分が目指す理学療法士像を言葉で表現できる
3. 医療の中での理学療法士の役割を理解し、説明することができる
4. 理学療法士としてふさわしい態度を述べるができる

《学生の留意点》

理学療法とはいかなる専門職なのか、これから4年間にわたる学習が何につながっていくのかを理学療法に関わる題材を通して考えてもらう時間となります。また、いくつかの学習方法を提示しますので積極的な参加を期待します。

《成績評価の方法》

筆記試験100%（筆記試験の内容には、グループワークの内容も含まれます）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	授業オリエンテーション
2	理学療法の歴史	歴史的背景から学ぶこと
3	理学療法士の養成	カリキュラムについて
4	理学療法士の養成	カリキュラムマップの作成
5	医療従事者としての倫理	説明能力 承認確認 ハラスメント
6	医療におけるリスク管理	医療事故の要因
7	理学療法の流れ①	情報収集と評価、他職種連携
8	理学療法の流れ②	運動療法、物理療法、義肢装具療法、ADL
9	理学療法士が扱う機器	検査機器 治療機器 補助機器
10	理学療法の評価技術	評価技術体験
11	理学療法の治療技術	治療技術体験
12	理学療法士が関わる分野	整形外科系運動器疾患、脳神経、神経内科系疾患、地域での関わり がん・終末期
13	臨床実習について	臨床現場での学び方
14	理想の理学療法士	理学療法士に備えるべき能力
15	理想の理学療法士	理想の理学療法士像

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習Ⅰ				
担当者氏名	沼尾 拓、山本 千夏				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

臨床見学実習の目標を達成するために、社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、社会人・医療人としての立ち振る舞い、プロフェッショナリズムを実践的に学習し、体得できる。更に臨床見学実習を振り返り、各々の課題を見つけることができ、地域実習・検査測定実習までに学習すべき内容と学習プランを挙げられる。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

特に指定しない

《目標行動(SBO)》

1. 社会医学技術学院の学生である意味を説明できる。
2. 医療人としてのマナー、医療安全について説明できる。
3. コロナ禍での臨床実習を遂行するために、標準予防策を理解し、正しい手洗い、消毒を実行できる。
4. 臨床見学実習を遂行するための心構えができる。
5. 臨床見学実習の目的を述べることができる。

《学生の留意点》

医療人としてのマナーや、外部施設とのかかわりを持つうえでの留意点を学んでいきます。社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、適切な立ち振る舞いが実践できるような意識で臨んでください。

《成績評価の方法》

提出課題 100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容になっている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	実習に向けての準備①	実習で求められる事 社会人として、学生としてのマナー、接遇・態度
2	実習に向けての準備②	積極性、意欲的な態度を考える
3	実習に向けての準備③	感染の種類と対応について、標準予防策
4	実習に向けての準備④	標準予防策 演習(手洗い、消毒、マスクの外し方)
5	実習に向けての準備⑤	個人情報の保護 医療安全、危険予知トレーニング
6	実習に向けての準備⑥	車椅子の介助方法
7	実習の予定 見学実習の目的・目標	全実習と見学実習との関係、見学実習の目的と目標
8	実習の予定② 見学実習の進め方	見学実習での成果物、求められる事
9	実習で求められること	実際に話を聞いてみよう
10	ストレス対処法	実習中のストレスとその対処法 ストレスコーピング
11	実習後セミナー①	実習で得たことをまとめてみよう(失敗談・他施設の情報収集) グループワーク
12	実習後セミナー②	報告会・発表 臨床実習Ⅱに繋がる振り返り
13	実習で求められる知識の確認	確認テスト
14	実習で求められる知識の獲得方法①	今後の実習に向けての学内での過ごし方、問題解決方法
15	実習で求められる知識の獲得方法②	知識獲得の実践

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	フィジカルアセスメント				
担当者氏名	森田 浩章				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

対象者に応じたフィジカルアセスメント（視診・触診・聴診・打診）や各検査測定（血圧・脈拍測定）が自ら実践できるようになるために、解剖生理での裏付けや結果の解釈を系統的に学習する。

《テキスト》

工藤慎太郎：機能解剖と触診。羊土社。2019。

《参考図書》

運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢・下肢）

《目標行動(SBO)》

1. 解剖・生理学の知識を実技結果と結びつけることができる。
2. 対象者に対して視診を行い、考察ができる。
3. 対象者に対して触診を行い、考察ができる。
4. 対象者に対して聴診を行い、考察ができる。
5. 基本的なバイタルチェックを実施できる。

《学生の留意点》

講義前に実技のできる服装に着替え、必要物品を準備すること。

積極的に参加し技術習得に努めること（私語・スマートフォン操作等、講義・技術習得の妨げとなる行為があった場合は欠席扱いとし、退室を命ずることがある）。知識面・実技の復習を必ず行うこと。

《成績評価の方法》

実技試験 70%

筆記試験 30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション・バイタルサイン①	オリエンテーション。バイタルサインとは（視診・触診・聴診・血圧・脈拍）。
2	バイタルサイン②	実技（脈拍、血圧測定）
3	触診（骨）①	実技（ランドマークの触診）
4	触診（骨）②	実技（ランドマークの触診）
5	触診（骨）③	実技（ランドマークの触診）
6	身体測定①	実技（四肢長測定）
7	触診（筋）①	上肢の筋
8	触診（筋）②	上肢の筋
9	触診（筋）③	上肢の筋
10	触診（筋）④	下肢の筋
11	触診（筋）⑤	下肢の筋
12	触診（筋）⑥	下肢の筋
13	触診（筋）⑦	体幹の筋
14	触診（筋）⑧	頸部・頭部の筋
15	身体測定②	実技（周径測定）

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学 I a				
担当者氏名	林 佑樹				
授業方法	実技	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために理学療法評価学に必要な知識や技術を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

理学療法評価の総論を踏まえ、信頼性のある理学療法評価を実施できるようになるため、関節可動域測定の意味・目的・方法を説明することができ、実施することができる。

《目標行動(SBO)》

1. 理学療法評価の目的と意義・過程を説明できる
2. 関節可動域測定の定義・目的・過程を説明できる
3. 実施に当たり、適切なオリエンテーションができる
4. 関節可動域測定に必要なランドマークの触診ができる
5. 基本軸・移動軸を説明できる
6. 各関節の最終域感の確認と、制限因子の予測ができる

《成績評価の方法》

期末試験 実技試験(70%)、筆記試験(30%)
 それぞれの試験において60%かつ筆記・実技合計点数が60%の両方に満たないものは再試験を課す。
 オンデマンドの場合、課題の内容に不備があれば出席とみなさないことがある。

《テキスト》

松澤正, 江口勝彦:『理学療法評価学 改訂第6版』, 金原出版, 2018年

《参考図書》

1. 青木主悦:『ROMナビ』, 有限会社ラウンドフラット, 2013年
2. 中村隆一 斎藤宏 長崎浩 著:『基礎運動学 第6版 補訂』, 医歯薬出版株式会社, 2018年.
3. 隈元庸夫編集:『臨床ROM 測定からエクササイズまで』, ヒューマンプレス, 2017年.

《学生の留意点》

実技が中心となる科目です。白衣(ケーシー)着用, 名札の着用など, 臨床現場で求められることを意識して臨んでください。運動方向の用語の理解, 骨のランドマークを正確に触る技術が必要になりますので, 解剖学や運動学, フィジカルアセスメントの内容をよく復習して授業に臨んでください。感染症の状況により授業形態の変更の可能性があります。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は林 佑樹(理学療法士)が担当し, その実務経験を授業内容の「理学療法評価演習の理解に向け検査測定とその解釈」に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	理学療法評価とは 関節可動域測定・総論	理学療法評価総論 目的と意義, 過程について 関節可動域を評価する意義, 目的, 過程 関節制限・最終域感について
2	関節可動域測定・各論 肘関節	オリエンテーション, 用手接触について 肘関節 屈曲・伸展
3	関節可動域測定・各論 肩関節	肩関節 屈曲・伸展・内転・外転
4	関節可動域測定・各論 肩関節②	肩関節 外旋・内旋・水平屈曲・水平伸展
5	関節可動域測定・各論 肩甲帯	肩甲帯 屈曲・伸展・挙上・下制
6	関節可動域測定・各論 手関節	橈骨手根関節 掌屈・背屈・攣屈・尺屈
7	関節可動域測定・各論 前腕 股関節	前腕 回外・回内 股関節 屈曲・親展
8	関節可動域測定・各論 股関節②	股関節 内転・外転・内旋・外旋
9	関節可動域測定・各論 膝関節 足関節	膝関節 屈曲・伸展 足関節 背屈・底屈
10	関節可動域測定・各論 足関節② 足部	足関節 内転・外転 足部 回内・回外
11	関節可動域測定・各論 足趾	中足趾節間関節・近位趾節間関節・遠位趾節間関節 屈曲・伸展
12	関節可動域測定・各論 手指 足趾②	中手指節間関節・近位指節間関節・遠位指節間関節 屈曲・伸展・外転・内転
13	関節可動域測定・各論 頸部 胸腰部	頸部 屈曲・伸展・回旋・側屈 胸腰部 屈曲・伸展・回旋・側屈
14	関節可動域測定・各論 その他の測定方法	メジャーを用いた測定, 三関節角度計の紹介 症例演習
15	症例演習	症例演習

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学 I b				
担当者氏名	佐々木 亮平				
授業方法	実技	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために理学療法評価学に必要な知識や技術を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

筋力低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できるようになるために、徒手筋力測定ができるようになる

《テキスト》

1. Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery 著, 津山直一 訳:
『新・徒手筋力検査法 原著第10版』, 協同医書出版社, 2020
年,

《参考図書》

なし

《目標行動(SBO)》

1. 定義・目的・原則を説明できる
2. 測定を実施する際に、適切なオリエンテーションが行える
3. 測定時の代償動作を抑制が適切に行えるような肢位を取らせ、正しい固定にて徒手抵抗を加えることができる
4. 上下肢・体幹の徒手筋力検査において各関節運動方向での主動作筋・測定肢位が言える

《学生の留意点》

1. 解剖学・運動学の知識が前提となるので十分に復習をしてください
2. 実技は動きやすい服装(触診が可能なようにTシャツ・短パン)に着替えてください
3. 数多くの経験をするために、実技では様々な人と練習を行ってください

《成績評価の方法》

筆記(30%)・実技(70%)によって評価を行う。
それぞれの試験において60%かつ筆記・実技合計点数が60%の
両方に満たないものは再試験を課す

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容の「理学療法評価演習の理解に向け検査測定とその解釈」に活かした授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	徒手筋力測定	徒手筋力検査総論：意義・目的・原則 徒手筋力検査：下肢(イントロダクション)
2	徒手筋力測定	徒手筋力検査：下肢 3項目
3	徒手筋力測定	徒手筋力検査：下肢 3項目
4	徒手筋力測定	徒手筋力検査：下肢 3項目
5	徒手筋力測定	徒手筋力検査：下肢 3項目
6	徒手筋力測定	徒手筋力検査：下肢 3項目
7	徒手筋力測定	徒手筋力検査：上肢 4項目
8	徒手筋力測定	徒手筋力検査：上肢 4項目
9	徒手筋力測定	徒手筋力検査：上肢 4項目
10	徒手筋力測定	徒手筋力検査：上肢 3項目
11	徒手筋力測定	徒手筋力検査：上肢 3項目
12	徒手筋力測定	徒手筋力検査：上肢・頸部 5項目
13	徒手筋力測定	徒手筋力検査法：頸部・体幹 4項目
14	徒手筋力測定	演習 単位時間内での測定とその工夫
15	徒手筋力測定	発展 筋力と動作、運動

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	物理療法学 I				
担当者氏名	長屋 説				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

対象者に対して、より各種物理療法を的確に実施できるようになるために、生理的作用とその効果、および実施する上での禁忌・注意事項を理解し、健康人に対して安全に実施する。

《テキスト》

細田多穂監修：『シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト：改訂第2版』・南江堂・2014年。

《参考図書》

Michelle H. Cameron編著、渡部一郎 訳：『EBM物理療法 原著第3版』・医歯薬出版・2015年。

《目標行動(SBO)》

1. 物理療法を実施する上での適応、禁忌、注意事項を説明できる。
2. 各種物理的刺激による生理的作用と効果について説明できる。
3. 適応となる症状を理解し、どのように作用するか説明できる。
4. 物理療法(理学療法)実施する上で一連の流れを説明できる。
5. 各種物理療法の実施手順、方法を理解し、実施できる。

《学生の留意点》

物理療法実技は動きやすい服装で参加してください。
本講義は、2年次の物理療法Ⅱと系統立てて行われます。
寒冷療法・温熱療法実技時にはワークシート作成が授業課題となります。

《成績評価の方法》

中間試験40% 期末試験60%
提出課題（ワークシート）成績加算あり

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	コースオリエンテーション（物理療法学の定義・授業構成）
2	物理療法とは	物理療法の適応と禁忌 ～物理療法はどんな時に使用するのか～
3	疼痛と理学療法	疼痛の定義と意義 ～疼痛の評価～
4	炎症と理学療法	急性炎症および組織の修復過程 ～問診方法と炎症の5徴候～
5	寒冷療法その1	寒冷療法(アイスパック・氷嚢・クリッカー)の理論
6	寒冷療法その2	寒冷療法(アイスパック・氷嚢・クリッカー)の実際
7	急性期の理学療法	急性期の理学療法まとめ
8	温熱療法その1	温熱療法(ホットパックとパラフィン)の理論
9	温熱療法その2	温熱療法(ホットパックとパラフィン)の実際
10	牽引療法その1	牽引療法の理論
11	牽引療法その2	牽引療法の実際
12	マッサージ療法その1	マッサージ療法の理論
13	マッサージ療法その2	マッサージ療法の実際
14	浮腫の理学療法	浮腫に対する理学療法（弾性包帯法・テーピング）
15	関節可動域制限の理学療法	関節可動域制限に対する理学療法（CPM）

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	生活環境支援理学療法学				
担当者氏名	藤川 明代				
授業方法	講義	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

自立支援のために、車椅子・福祉機器・住宅改造・周辺環境を含めた内容を理解し、すべての人が住みやすいよう理学療法の観点から学ぶ。

《テキスト》

国際福祉機器展H.C.R.2021 福祉機器 選び方・使い方 副読本
基本動作編・住宅改修編・自立支援編

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 車椅子の使用目的・機能を説明でき、操作方法を指導できる。
2. 福祉機器の目的・機能を説明でき操作方法を指導でき、メンテナンスを経験する。
3. 車椅子のシーティングシステムを対象者に適用させる経験をする。
4. 住環境および自宅周辺環境について説明することができる。

《学生の留意点》

- ・人の支援をする立場となり必要な人に必要なものを提供できるよう考えを深めてほしい。
- ・グループワークを行うことが多いが積極的に患者を支援する立場となり意見を言ってもらいたい。

《成績評価の方法》

提出物(4割)・授業内でのグループワークでの取り組み(4割)・定期試験(2割)によって成績を評価する。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	福祉機器を知る	オリエンテーション 福祉器具とは何か
2	身近な福祉機器について	身近な福祉機器を模索する①
3	身近な福祉機器について	身近な福祉機器を模索する②
4	自宅を模索する	身自宅を振り返りバリアを模索する
5	自宅を模索する	自宅のバリアの改善策を検討する
6	環境設定について	車いすについて目的(姿勢保持等)・機能・操作方法について知る①
7	環境設定について	車いすについて目的(姿勢保持等)・機能・操作方法について知る②
8	環境設定について	リフト・ベッドについて目的・機能・操作方法について知る①
9	環境設定について	リフト・ベッドについて目的・機能・操作方法について知る②
10	移動	福祉車両について目的・機能・操作方法について知る①
11	国立リハビリテーションセンター見学	(事前学習)障害者の自立支援を考える
12	国立リハビリテーションセンター見学	実施
13	アビリティーズ見学(説明)	アビリティーズ見学に関するオリエンテーション
14	アビリティーズ見学(参加)	アビリティーズ見学参加(午前・午後)
15	アビリティーズ見学(振り返り)	アビリティーズ見学振り返り

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床見学実習				
担当者氏名	沼尾 拓、山本 千夏				
授業方法	実習	単位・回	1単位・0回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1- となるために本科目では他者に傾聴できる力を身につける。 ○ DP1- となるために人の話を聴き、正しく理解するコミュニケーション力を身につける。 ○ DP2- に育つための専門職の仕事内容に関する知識を身につける。 ○ DP2- に育つための専門職の治療・支援に関する知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

理学療法士としての役割を知り、今後の学習意欲を高めるために、臨床現場の見学実習を通じて理学療法士の専門性を学ぶ。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 実習施設の特徴や役割を説明できる。
2. 実習施設のリハビリテーション全体における位置づけ、理学療法・作業療法部門の組織、役割を説明できる。
3. 関連他部門（職種）の役割と連携について説明できる。
4. 基本的なリハビリテーションを実施できる。
5. 医療安全、実習施設規則、個人情報保護を遵守できる。
6. 実習で得た知識や内容を臨床実習Ⅱに向けて共有出来る。

《学生の留意点》

何を見学するのかを明確にし、理学療法士と対象者の関わり方がどのように行われていたのか、対象者の困りごとは何なのかを見学して頂くこと、また、その上であいさつや質問などを自ら積極的にできるように心がけること。

《成績評価の方法》

指導報告書・提出課題・実習後セミナーを総合的に勘案して評価する。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士が、その実務経験を活かした科目となっている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	施設の特徴を知る。理学療法士の役割を知る。	5日間の臨床見学実習
2	共有	実習後セミナー
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	医療コミュニケーション論Ⅱ				
担当者氏名	長屋 説、福田 崇				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

医療人として対象者や他職種との信頼関係を構築し、適切な情報収集や理学療法評価のために、医療現場におけるコミュニケーション能力を習得する。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

必要に応じて提示する

《目標行動(SBO)》

1. 理学療法の展開に必要な情報を列挙することが出来る。
2. 対象者から必要な情報を収集ができる。
3. 対象者の状況を配慮した言葉かけ（言語コミュニケーション）ができる
4. 対象者に対して適切な姿勢・態度・距離感（非言語コミュニケーション）がとれる

《学生の留意点》

医療現場での他職種および対象者とのコミュニケーションを十分に習得するために、積極的な参加をのぞみます。また、授業時間内に自身の内観のために動画撮影を各自で行うことがあります。授業に参加しながら科目担当の質問に対しての自分の解答を紙に書き、そのリアクションをお互いで話合ったりします。授業参加が課題提出になるので気を付けること。

《成績評価の方法》

課題提出（70%）、小テスト・発表（30%）

この授業ではお互いがお互いを評価したり、相手の率直な意見を受け止めなくてはならないこともあります。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コミュニケーション能力とは	コミュニケーション能力を知る/コミュニケーションを評価する/話す力・聴く力
2	友達とのコミュニケーション	価値観の多様性を考える・調和とは
3	患者とのコミュニケーション	対象者の思いを考える
4	患者の家族や多職種とのコミュニケーション	エビデンスの不確実性とは
5	私たちが関わる対象者とは	教育理念のディプロマポリシーを紐解く
6	自分の思いを相手に伝えよう	困っていることを言葉にしてみよう/話しやすい環境を作ってみよう
7	コミュニケーションツール	それぞれの特徴と印象/フェイクニュース
8	テーマをみんなで討論してみよう①	役割と時間
9	テーマをみんなで討論してみよう②	より良い時間にするためには/目標と結論から得たもの/次に生きる話
10	リハビリテーション場面のコミュニケーション	担当者を選ばない患者が担当者に望むこと/姿勢・態度・距離感・他のセラピストとの比較
11	1年生との合同実技①	問診の実践とコミュニケーション①
12	1年生との合同実技②	問診の実践とコミュニケーション②
13	1年生との合同実技③	検査測定場面での患者対応と配慮①
14	1年生との合同実技④	検査測定場面での患者対応と配慮②
15	合同演習の振り返り	合同演習の振り返り

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学演習				
担当者氏名	沼尾 拓、中山 雅和、森田 浩章				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ DP2-に育つための基礎的な知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

ヒトの運動を運動学的に理解するために、歩行を基に運動学の知識の応用を図る

《テキスト》

姿勢・動作・歩行分析(PT・OTビジュアルテキスト) 羊土社

《参考図書》

中村隆一他：『基礎運動学第6版』。医歯薬出版株式会社。2003年。

《目標行動(SBO)》

- ・運動の際の重心移動を説明できる。
- ・重心移動の際の床反力を説明できる。
- ・床反力を得るための関節運動を説明できる。
- ・関節を動かすための筋収縮を説明できる。

《学生の留意点》

各単元で理解した内容を文章で説明する課題を課します。しっかりとメモを取りながら授業に参加してください。また、歩行の測定後にSBOに沿った考察を書いてもらいます。

《成績評価の方法》

課題50%，筆記試験50%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コースオリエンテーション	重力のある世界で運動するとは
2	歩行の基礎知識①	重心・床反力・関節運動・筋活動の関係（考え方、相分け）
3	歩行の基礎知識②	用語
4	歩行の基礎知識③	歩行相
5	歩行時の重心移動①	上下への重心移動
6	歩行時の重心移動②	左右への重心移動
7	歩行時の床反力①	上下分力
8	歩行時の床反力②	前後・左右分力
9	歩行時の関節運動①	足関節の関節運動 (歩行測定1/3)
10	歩行時の関節運動②	膝関節の関節運動 (歩行測定1/3)
11	歩行時の関節運動③	股関節・肩関節の関節運動 (歩行測定1/3)
12	歩行時の筋活動①	足関節の筋活動 (歩行測定1/3)
13	歩行時の筋活動②	膝関節の筋活動 (歩行測定1/3)
14	歩行時の筋活動③	股関節の筋活動 (歩行測定1/3)
15	まとめ	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	病理学概論				
担当者氏名	福井 謙二				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために病理学的主要疾患の病態を組織像と共に基礎的知識を身につける。			

《一般教育目標(GI0)》

疾病の原因と、それによって生じる形態学的な変化を理解し、さらにどのような機能的障害が引き起こされるかを理解する。病理学はしばしば基礎医学と臨床医学の境界領域に位置づけられるが、この授業で習得した知識や考え方が臨床医学の場で発展されることを目指す。

《テキスト》

系統看護講座 病理学 第6版 ～疾病のなりたちと回復の促進 [1], 医学書院

《参考図書》

必要に応じて紹介します。

《目標行動(SB0)》

1. 全身の各臓器に共通な病変を分類し説明できる。
2. 各臓器・系統別に疾病の成り立ちについて説明できる。

《学生の留意点》

- ・すべてオンデマンド授業の予定です。

《成績評価の方法》

筆記試験 (100%)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、外部講師の福井先生（医師）が担当し、実務経験を活かした授業としています。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	病理学とは、病理診断、病因論	
2	先天異常、奇形	
3	退行性病変	
4	進行性病変	
5	循環障害	
6	炎症	
7	免疫、感染症	
8	腫瘍、死因統計	
9	循環器系の疾患	
10	血液・造血器系の疾患	
11	呼吸器系の疾患	
12	消化器系の疾患	
13	腎・泌尿器系、生殖器系、乳腺の疾患	
14	神経系の疾患	
15	運動器系の疾患	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床神経学				
担当者氏名	栗崎 博司、板東 充秋				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために必要な臨床神経学の主な疾患概念・病態・神経学的検査・診断と治療・予後等における一般的知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

作業療法へ展開するために、神経障害を生じる主な疾患の疫学、病態、予後、症状、評価・検査、一般的治療について学ぶ

《テキスト》

江藤文夫 編：『神経内科学テキスト』。南江堂、2017

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 神経内科疾患の成因と分類について説明できる。
2. 神経内科領域の主な疾患についての診断について説明できる。
3. 神経内科領域の主な疾患についての評価、治療について説明できる。
4. 神経内科と関連する保健と福祉に関連する法律について説明できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経内科学医師としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	神経機能解剖／神経生理／診断総論（脳血管障害を含む）
2	〃	神経機能解剖／神経生理／診断総論（脳血管障害を含む）①
3	〃	神経薬理／治療総論／神経の成長・加齢
4	〃	神経薬理／治療総論／神経の成長・加齢
5	各論	変性疾患 パーキンソン症候群／認知症
6	〃	変性疾患 パーキンソン症候群／認知症
7	〃	高次脳機能障害
8	〃	高次脳機能障害
9	〃	高次脳機能障害（失語症を含む）
10	〃	高次脳機能障害（失語症を含む）
11	〃	意識障害／脳神経／運動の経路
12	〃	意識障害／脳神経／運動の経路
13	〃	感覚の経路／運動失調／嚥下機能
14	〃	感覚の経路／運動失調／嚥下機能
15	症候学	錐体外路症状／自律神経／異常歩行

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床神経学				
担当者氏名	板東 充秋、栗崎 博司				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために必要な臨床神経学の主な疾患概念・病態・神経学的検査・診断と治療・予後等における一般的知識を身につける。			

《一般教育目標(GI0)》

作業療法へ展開するために、神経障害を生じる主な疾患の疫学、病態、予後、症状、評価・検査、一般的治療について学ぶ

《テキスト》

江藤文夫 編：『神経内科学テキスト』。南江堂。2017

《参考図書》

《目標行動(SB0)》

1. 神経内科疾患の成因と分類について説明できる。
2. 神経内科領域の主な疾患についての診断について説明できる。
3. 神経内科領域の主な疾患についての評価、治療について説明できる。
4. 神経内科と関連する保健と福祉に関連する法律について説明できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経内科学医師としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	症候学	錐体外路症状／自律神経／異常歩行
2	〃	血管障害 神経画像／正常圧水頭症／頭部外傷
3	〃	血管障害 神経画像／正常圧水頭症／頭部外傷
4	〃	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の基礎と 在宅におけるALS患者への支援
5	〃	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の基礎と 在宅におけるALS患者への支援
6	〃	脳腫瘍／感染
7	〃	脳腫瘍／感染
8	〃	筋疾患／重症筋無力症
9	〃	筋疾患／重症筋無力症
10	〃	内科疾患に伴う神経症候／中毒／代謝疾患
11	〃	内科疾患に伴う神経症候／中毒／代謝疾患
12	〃	脱髄疾患／末梢神経疾患／自律神経障害
13	〃	脱髄疾患／末梢神経疾患／自律神経障害
14	〃	小児先天性疾患
15	〃	小児先天性疾患

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	整形外科学Ⅰ				
担当者氏名	下河辺 仁				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために必要な整形外科学の主な疾患概念・病態・整形外科学的検査・診断と治療・予後等における一般的知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

運動器系理学療法を理解するために、整形外科の主要疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療、リハビリテーションについて理解する。

《テキスト》

松野丈夫：『標準整形外科学』第14版。医学書院。
神野哲也：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション。羊土社。2012。

《参考図書》

指定なし

《目標行動(SBO)》

1. 骨、関節、筋、神経の解剖学の知識を理解できる。 2. 整形外科疾患の診断方法、検査方法を理解できる。 3. 保存的治療と手術的治療を説明できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験50%、課題50%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、医師と理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	概論①	整形外科学の歴史、概論
2	概論②	整形外科学の歴史、概論
3	基礎①	整形外科学基礎科学、骨、関節、筋、神経
4	基礎②	整形外科学基礎科学、骨、関節、筋、神経
5	総論①	整形外科診断学総論、整形外科治療総論
6	総論②	整形外科診断学総論、整形外科治療総論
7	疾患総論Ⅰa	感染症、関節リウマチとその類縁疾患
8	疾患総論Ⅰb	感染症、関節リウマチとその類縁疾患
9	疾患総論Ⅱa	慢性関節疾患、四肢循環障害
10	疾患総論Ⅱb	慢性関節疾患、四肢循環障害
11	疾患総論Ⅲ	先天性疾患、代謝性疾患
12	疾患総論Ⅳa	骨腫瘍・軟部腫瘍、神経疾患・筋疾患
13	疾患総論Ⅳb	骨腫瘍・軟部腫瘍、神経疾患・筋疾患
14	整形外科理学療法①	
15	整形外科理学療法②	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	整形外科学Ⅱ				
担当者氏名	下河辺 仁				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために必要な整形外科学の主な疾患のリハビリテーションについて基礎的知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

運動器系理学療法を理解するために、整形外科の主要疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療、リハビリテーションについて理解する。

《テキスト》

松野丈夫：『標準整形外科学』第14版。医学書院。
神野哲也：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション。羊土社。2012。

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 各疾患の発生要因を理解できる。 2. 各疾患の代表的な疾患名を列挙し、症状について説明できる。 3. 各疾患の診断方法、治療方法を説明できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験50%、課題50%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、医師と理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	疾患各論Ⅰa	肩、肘、手関節および手指
2	疾患各論Ⅰb	肩、肘、手関節および手指
3	疾患各論Ⅱa	脊椎および体幹
4	疾患各論Ⅱb	脊椎および体幹
5	疾患各論Ⅲa	股関節
6	疾患各論Ⅲb	股関節
7	疾患各論Ⅳa	膝、足関節および足指
8	疾患各論Ⅳb	膝、足関節および足指
9	外傷学Ⅰa	軟部組織損傷、骨折、脱臼総論
10	外傷学Ⅰb	軟部組織損傷、骨折、脱臼総論
11	外傷学Ⅱ	骨折、脱臼
12	外傷学Ⅲa	脊髄損傷、末梢神経障害
13	外傷学Ⅲb	脊髄損傷、末梢神経障害
14	整形外科理学療法③	
15	整形外科理学療法④	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床内科学Ⅰ				
担当者氏名	木下 潤一郎				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために必要な臨床内科学の主な疾患概念・病態・内科学的検査・診断と治療・予後等における基礎知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

理学療法・作業療法へ展開するために、主な内科疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療を知る

《テキスト》

中島雅美 編：『PT・OT基礎から学ぶ内科学ノート 第2版』、医歯薬出版、2019年。

《参考図書》

奈良 勲 監：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』第2版、医学書院、2014年。

《目標行動(SBO)》

1. 主な循環器疾患、代謝性疾患、消化器疾患、呼吸器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
2. 内分泌疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
3. 泌尿器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
4. 血液・免疫疾患を列挙でき、特徴について説明ができる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

レポート

《実務経験のある教員による科目》

当科目は医師が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	消化器疾患1	消化管系
2	消化器疾患2	肝胆膵
3	代謝性疾患1	糖代謝障害（糖尿病）
4	代謝性疾患2	糖代謝障害（低血糖）・脂質代謝障害
5	代謝性疾患3	痛風・骨粗鬆症
6	循環器疾患1	循環器の解剖生理学・心不全
7	循環器疾患2	虚血性心疾患・心弁膜疾患
8	循環器疾患3	不整脈・心筋疾患・心膜炎・動脈疾患・高血圧
9	呼吸器疾患1	呼吸器の解剖生理学・閉塞性肺疾患
10	呼吸器疾患2	拘束性肺疾患・感染症・腫瘍性疾患
11	内分泌疾患	
12	腎・泌尿器疾患	
13	血液・免疫疾患	
14	総合討議	
15	〃	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床内科学Ⅱ				
担当者氏名	遠藤 敏、森 浩輝				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために必要な臨床内科学(老年学・小児科学の主な疾患概念・病態・特異的検査・診断と治療・予後等における基礎知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

高齢期にある対象者を的確に理解するために、老化がもたらす生理学的変化や老年者の疾患の特徴について学ぶ。理学療法へ展開するために、小児の生理・心理・疾病の特徴と小児保健に関する基本的な知識を学ぶ。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

大村尉義編：『標準理学療法学・作業療法学 老年学第4版』。医学書院。2014
日本老年医学会編：『老年医学テキスト3版』。MEDICALVIEW。2013

《目標行動(SBO)》

1：高齢者の特徴と医療・福祉政策が言える 3：老化と加齢、老年症候群の特徴を言える 4：高齢者の機能・生活評価の説明ができる 1. 先天異常について説明できる。2. 新生児の特徴について説明できる。3. 感染症、または予防接種の種類を列挙できる。4. 小児の発達過程を説明できる。 5. 小児保健について説明できる。6. 循環器障害の種類と特徴について説明できる。

《学生の留意点》

老年の疾患でなく、高齢の生活者として考えるようにしてほしい

《成績評価の方法》

《実務経験のある教員による科目》

当科目は遠藤（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	老年学とは	老年医学から老年学への発展
2	高齢化の問題	高齢社会の抱える諸問題とその対策
3	老年症候群	老年症候群と廃用症候群
4	老年症候群	老年症候群と廃用症候群
5	高齢者の生理学的特徴1	高齢者の生理学的特徴（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、体性感覚などの感覚器）
6	高齢者の生理学的特徴2	高齢者の生理学的特徴（呼吸、心臓、腎臓、肝臓などの臓器）
7	フレイルとロコモティブ・シンドローム	フレイルとロコモティブ・シンドロームの理解
8	高齢者の主な疾患	高齢者における、特に重要な疾患
9	認知症の理解	認知症特有の症状の理解
10	高齢者の機能・生活評価	高齢者の機能・生活評価の検査項目とテストバッテリー
11	小児の疾病 先天異常	〃
12	〃	〃
13	小児の疾病 感染症	〃
14	〃	〃
15	小児の疾病と障害 保健	〃

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	社会医学				
担当者氏名	小林 規彦				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

医療職である療法士としてプライマリヘルスケアを理解するために、社会医学の概要について学ぶ。

《テキスト》

『予防と産業の理学療法』，南江堂，2020年

《参考図書》

授業内に提示する

《目標行動(SBO)》

- ・社会医学の概要を説明できる。
- ・国際的な流れと国内の動きを理解できる。
- ・理学療法の関与を説明できる。

《学生の留意点》

グループワークへの積極的参加が望まれる。

※なお、状況に応じた対応をはかる必要がある観点から、事前準備等の必要が生じた場合は指示するので留意する。

《成績評価の方法》

課題提出

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、実務経験ならびに当該分野専門教育経験のある講師が担当している。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コースオリエンテーション	社会医学とは
2		社会環境と健康
3		疫学と予防医学
4		生活習慣と疾病
5		感染症対策
6		地域保健
7		産業保健
8		保健・医療・福祉と介護制度
9		国際保健
10		臨床研究と医の倫理
11		健康の社会的決定要因
12		社会医学とリハビリテーション
13		社会医学の中の理学療法Ⅰ
14		社会医学の中の理学療法Ⅱ
15		まとめ

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床運動学				
担当者氏名	福田 崇				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つための基礎的な知識を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として障害者の診方を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

動作における問題点を抽出できるようになるために、理学療法評価における動作観察・分析の位置づけを理解し、健常者や患者の姿勢観察・分析、動作観察・分析の方法を理解する。

《目標行動(SBO)》

1. 姿勢と動作の観察に必要な用語を使うことができる
2. 基本姿勢・動作の観察を記述することができる
3. 基本姿勢・動作について、観察により発見した特徴を描画(図示)することができる

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《テキスト》

脳卒中片麻痺の基本動作分析 メジカルビュー社 (5940円)

《参考図書》

基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版 (6800円) 日常生活活動の分析 身体運動学的アプローチ 第2版 南江堂 (6380円) 観察による歩行分析 医学書院 (5000円) 介護にいかすバイオメカニクス 医学書院 (4095円) PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 羊土社 (5000円)

《学生の留意点》

- ・ 演習時は動作観察し易い服装に着替えること。
- ・ 講義の進捗状況によって単元が入れ替わることがあります。
- ・ 演習時は能動的に学習を実施し、協同学習者とともに良い学びとなるよう努力すること。
- ・ 講義内外に積極的に観て、考えて、書くことが上達に繋がります。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を姿勢や動作の観察・分析のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	動きに関する概要1	動きを考える対象と側面
2	動きに関する概要2	動きの研究、理学療法士にとっての動き
3	動きの評価1	動きの評価
4	動きの評価2	動きを評価する視点と基準
5	動きの評価3	理学療法士が動きを評価する視点
6	動きの評価4	理学療法士が動きを評価する基準
7	臥位動作のメカニズム1	臥位動作における身体運動
8	臥位動作のメカニズム2	臥位動作に必要な身体構造と心身機能
9	臥位動作の評価1	臥位動作の日常生活動作的評価
10	臥位動作の評価2	臥位動作の異常動作的評価
11	臥位動作の評価3	臥位動作の運動学的評価
12	臥位動作の評価4	臥位動作の評価まとめ
13	座位動作のメカニズム1	座位動作における身体運動
14	座位動作のメカニズム2	座位動作に必要な身体構造と心身機能
15	座位動作の評価1	座位動作の日常生活動作的評価

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床運動学				
担当者氏名	福田 崇				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つための基礎的な知識を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として障害者の診方を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

動作における問題点を抽出できるようになるために、理学療法評価における動作観察・分析の位置づけを理解し、健常者や患者の姿勢観察・分析、動作観察・分析の方法を理解する。

《目標行動(SBO)》

- 基本動作に必要なとなる運動学・運動力学的要求を理解・説明できる
- 姿勢・動作観察から、その特徴や異常を発見し、その原因となる機能障害を導き出すことができる

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《テキスト》

脳卒中片麻痺の基本動作分析 メジカルビュー社 (5940円)

《参考図書》

基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版 (6800円) 日常生活活動の分析 身体運動学的アプローチ 第2版 南江堂 (6380円)
観察による歩行分析 医学書院 (5000円) 介護にいかすバイオメカニクス 医学書院 (4095円) PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 羊土社 (5000円)

《学生の留意点》

- ・演習時は動作観察し易い服装に着替えること。
- ・講義の進捗状況によって単元が入れ替わることがあります。
- ・演習時は能動的に学習を実施し、協同学習者とともにより良い学びとなるよう努力すること。
- ・講義内外に積極的に観て、考えて、書くことが上達に繋がります。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を姿勢や動作の観察・分析のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	座位動作の評価2	座位動作の異常動作の評価
2	座位動作の評価3	座位動作の運動学的評価
3	座位動作の評価4	座位動作の評価まとめ
4	立位動作のメカニズム1	立位動作における身体運動
5	立位動作のメカニズム2	立位動作に必要な身体構造と心身機能
6	立位動作の評価1	立位動作の日常生活動作の評価
7	立位動作の評価2	立位動作の異常動作の評価
8	立位動作の評価3	立位動作の運動学的評価
9	立位動作の評価4	立位動作の評価まとめ
10	移動動作のメカニズム1	移動動作における身体運動
11	移動動作のメカニズム2	移動動作に必要な身体構造と心身機能
12	歩行の評価1	歩行の日常生活動作の評価
13	歩行の評価2	歩行の異常動作の評価
14	歩行の評価3	歩行の運動学的評価
15	歩行の評価4	歩行の評価まとめ

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習Ⅱ				
担当者氏名	福田 崇、長屋 説				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では模擬患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP2-に育つために専門職としてビジネスマナーを身につける。 ○ DP3-に育つために実習施設の理念と組織および運営について理解する。 ○ DP4-に育つためにプロフェッショナリズムを考察する。			

《一般教育目標(GI0)》

地域リハビリテーション見学と検査測定実習の目標を達成するために、今までの学修を振り返り、地域包括ケアシステムを概観し、かつ、検査測定技術を復習して、プロフェッショナリズムを実践的に学習し、事後に振り返りを図ること。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

特に指定しない

《目標行動(SB0)》

- ・ 見学施設の任務と地域包括ケアシステムの組織を理解できる。
- ・ 基本的なビジネスマナー（挨拶/報告連絡相談/コミュニケーション）を想起し、模倣できる。
- ・ 医療安全、個人情報保護について理解できる。
- ・ プロフェッショナリズムを考察できる。
- ・ 基本的な「検査測定」を学生間で実施できる。

《学生の留意点》

検査測定技術については前年度評価学で学んだ内容を復習し、さらなる技術向上に努めること。
また、対象者に対して適切な手技が行えるよう、ロールプレイでは医療従事者としての自覚を持って積極的に関与すること。

《成績評価の方法》

実技試験100% 15回の授業外で実技試験を実施します。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容になっている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	コースオリエンテーション/検査測定実習とは/
2	検査測定実習に向けての準備①	診療記録/医療安全/医療事故（インシデント・アクシデント）/個人情報保護/報告連絡相談
3	検査測定実習に向けての準備②	検査結果の記載方法/SOAP
4	検査測定実習に向けての準備③	他部門情報から何がわかるのか
5	検査測定技術①	四肢長・周径
6	〃	〃
7	検査測定技術②	ロールプレイによるROM
8	〃	〃
9	検査測定技術③	ロールプレイによるMMT
10	〃	〃
11	検査測定技術④	ロールプレイによる四肢長・周径
12	〃	〃
13	検査測定技術⑤	ロールプレイによる総合演習
14	〃	〃
15	まとめ	総合練習/まとめ

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習Ⅲ				
担当者氏名	福田 崇、長屋 説				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

評価実習の目標を達成するために、評価技術/臨床推論/プロフェッショナリズムを実践的に学習し、事後に振り返りを図ること。

《テキスト》

特に指定なし

《参考図書》

特に指定なし

《目標行動(SBO)》

- ・実習施設の役割と組織を理解できる。
- ・評価実習に向けた評価技術を獲得する。
- ・評価内容に対して臨床推論ができる。
- ・アンプロフェッショナリズムを考察できる。
- ・模擬患者さんに対して適切な態度と姿勢を持てる。
- ・症例レポートの作成とともに自身の解釈を適切に提示できる。

《学生の留意点》

評価実習に向けての演習となるため、検査・測定方法の予習・復習を必ず行うこと。また、臨床推論学習に必要な基礎科目も適宜確認・復習することが望ましい。

《成績評価の方法》

課題・レポート(50%)、実技試験(50%)
実技試験は授業時間外で実施します。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容になっている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コースオリエンテーション	授業内容の説明、成績評価について
2	評価実技①	肢位別の評価用紙を作成し、実施できるようにする。
3	評価実技②	模擬患者さんに対して評価を行う①
4	評価実技③	模擬患者さんに対して評価を行う②
5	疾患別評価①	グループで症例を検討し、必要な情報収集を行う。
6	疾患別評価②	グループで症例を検討し、必要な評価項目を検討する。
7	疾患別評価③	提示された評価内容より統合と解釈を行う。
8	疾患別評価④	統合と解釈より問題点とゴール設定を行う。
9	疾患別評価⑤	goalに適した理学療法を抽出する。
10	疾患別評価⑥	実技実習①
11	疾患別評価⑦	実技実習②
12	疾患別評価⑧	実技実習③
13	症例レポート①	レポートの作成について①
14	症例レポート②	レポートの作成について②/評価実習に向けてのオリエンテーション
15	症例レポート③	レポートの作成について③/評価実習前演習

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学Ⅱa				
担当者氏名	藤川 明代				
授業方法	実技	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では模擬患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP1-となるために本科目ではアドバイスを受けたことを振り返り受け止め行動化することができる。 ○ DP2-に育つために理学療法評価学に評価技術を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として障害者の診方を身につける。			

《一般教育目標(GI0)》

神経学的検査を実施するために、その意義・メカニズムを理解し、方法を実施できる。

《テキスト》

松澤正：『理学療法評価学 改訂第6版』：金原出版：2021

《参考図書》

1. 田崎義昭 他著：『ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版』：南山堂：2016
2. 医療情報科学研究所：『病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版』：メディックメディア：2017
3. 鈴木則宏編：『神経診察クロズアップ』：MEDICAL VIEW

《目標行動(SB0)》

1. 各検査の定義・目的・原則を説明できる。
2. 各検査の適切なオリエンテーションができる。
3. 結果の記録方法、測定機器を説明、使用できる。
4. 検査時に適切な肢位にさせ、適切な抵抗・刺激を与えられる。

《学生の留意点》

1. 解剖学・運動学の知識が前提となるので十分に復習をしてください。
2. 実技は動きやすい服装(触診が可能のようにTシャツ・短パン)に着替えてください。
3. 数多くの経験をするために、実技では様々な人と練習を行ってください。

《成績評価の方法》

神経学的検査(筆記・実技)によって評価を行う。それぞれの試験において60%かつ筆記・実技合計点数が60%の両方に満たないものは再試験を課す。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容の「理学療法評価演習の理解に向け検査測定とその解釈」に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	神経学的検査とは 麻痺の分類 中枢神経・末梢神経
2	意識障害	意識障害の診かた
3	感覚検査	感覚検査の意義
4	感覚検査	感覚検査の意義
5	感覚検査	感覚検査の実技(触覚・痛覚)
6	感覚検査	感覚検査の実技(触覚・痛覚)
7	感覚検査	感覚検査の実技(温度覚・深部覚・二点識別覚・足底触圧覚)
8	感覚検査	感覚検査の実技(温度覚・深部覚・二点識別覚・足底触圧覚)
9	反射検査	反射理論・反射検査の意義と方法
10	反射検査	反射理論・反射検査の意義と方法
11	反射検査	反射検査実技
12	反射検査	反射検査実技
13	運動器系の診かた	筋の診かた
14	運動器系の診かた	筋緊張 筋委縮実技
15	運動器系の診かた	筋緊張 筋委縮実技

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学Ⅱb				
担当者氏名	山本 千夏				
授業方法	実技	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では模擬患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP1-となるために本科目ではアドバイスを受けたことを振り返り受け止め行動化することができる。 ○ DP2-に育つために理学療法評価学に評価技術を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として障害者の診方を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

神経学的検査を実施するために、その意義・メカニズムを理解し、方法を実施できる。

《テキスト》

松澤正：『理学療法評価学 改訂第6版』：金原出版

《参考図書》

1. 田崎義昭 他著：『ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版』：南山堂：2016
2. 医療情報科学研究所：『病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版』：メディックメディア：2017
3. 鈴木則宏編：『神経診察クロズアップ』：MEDICAL VIEW

《目標行動(SBO)》

1. 各検査の定義・目的・原則を説明できる
2. 各検査の適切なリエンションを実施し、一般的な測定手順、注意点、リスクを説明できる
3. 検査結果の記録方法、測定器具の使用方を説明、使用できる
4. 各神経学的検査と障害・疾患の関係、神経解剖・生理学的背景を説

《成績評価の方法》

筆記(50%)、実技試験(50%)にて評価を行う。それぞれの試験において60%かつ筆記・実技合計点数が60%に満たないものは再試験を課す。

《学生の留意点》

解剖学・運動学・生理学の知識が前提となるので十分復習しておくこと。
実技は動きやすい服装(Tシャツ・短パン)に着替えること。
数多くの経験をするために、実技では様々な人と練習を行うこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容の「理学療法評価演習の理解に向け検査測定とその解釈」に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	コースオリエンテーション、神経学検査の基礎知識
2	協調性検査①	協調性検査の方法と手順
3	協調性検査②	協調性検査の方法と手順
4	片麻痺機能検査①	片麻痺の病態
5	片麻痺機能検査②	片麻痺機能検査
6	脳神経検査①	脳神経検査の方法と手順
7	脳神経検査②	脳神経検査の方法と手順
8	姿勢反射・バランス検査①	姿勢反射検査とは、バランスの定義
9	姿勢反射・バランス検査②	姿勢反射・バランス検査(TUG, BBS, FRT, 他)
10	高次脳機能検査①	高次脳機能障害の見方
11	高次脳機能検査②	高次脳機能障害の見方
12	認知症評価	HDS-R、MMSE
13	意識障害	意識障害の診かた
14	症例検討	症例検討演習
15	症例検討	症例検討演習

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学Ⅲ				
担当者氏名	林 佑樹				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		☐ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るための評価技術や必要な知識、コミュニケーション技術、態度を身につける。 ☐ DP2-に育つために専門職として必要な知識および臨床思考能力、技術、態度を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

妥当な理学療法評価を実施するために、画像情報や臨床検査情報を理解すること。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

宮越浩一編：『画像評価』。医学書院。2021。
 高木康他編：『標準臨床検査医学』第4版。医学書院 2013。
 美津島隆他監修：『リハスタッフのためのイチからわかる臨床検査活用術』。メディカルビュー社 2018。

《目標行動(SBO)》

1. 画像情報を理解できる。
2. 血液学的/生化学検査を理解できる。
3. 生体機能検査を理解できる。

《学生の留意点》

安全な理学療法を遂行する上で必須の情報である画像、血液検査、生理検査を理解することは、病態の理解や理学療法の効果判定に欠かせません。解剖学、生理学、病理学、臨床医学の復習をしながら、学修をすすめてください。

《成績評価の方法》

筆記試験80%
 小テスト20%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論 (林)	理学療法評価のふりかえり、画像情報/臨床検査の概要、理学療法評価における画像情報/臨床検査の意義
2	呼吸器系画像情報 (林)	肺炎、慢性閉塞性肺疾患、肺がん、気胸
3	循環器系画像情報 (林)	心不全、大動脈瘤/大動脈解離、深部静脈血栓症
4	血液学的検査 (林)	血球検査、血栓/止血検査
5	生化学検査 (林)	ホルモン系、肝/胆/腎/膵系、タンパク/酵素系、糖質/脂質系、電解質/血液ガス、尿、腫瘍マーカー、免疫系
6	生体機能検査① (林)	超音波検査、呼吸機能検査、心電図
7	生体機能検査② (林)	筋電図、基礎代謝、脳波検査
8	運動器系画像情報① (沼尾)	脊椎
9	運動器系画像情報② (沼尾)	上肢
10	運動器系画像情報③ (沼尾)	骨盤・下肢
11	中枢神経系画像情報① (沼尾)	脳画像の基本的見方 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、硬膜下・硬膜外出血
12	中枢神経系画像情報② (沼尾)	正常圧水頭症、脳腫瘍、認知症、神経変性疾患
13	まとめ (林)	コース全体の「ふりかえり」と理学療法臨床推論への接続を考察する
14	症例検討① (伊藤)	症例を通して、理学療法評価への画像情報と臨床検査情報の活用を学ぶ
15	症例検討② (伊藤)	症例を通して、理学療法評価への画像情報と臨床検査情報の活用を学ぶ

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	物理療法学Ⅱ				
担当者氏名	福田 崇				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GI0)》

物理療法学Ⅰに続いて、理学療法の治療体系のひとつである物理療法を施術できるようになるために、その理論・手法を修得する。

《テキスト》

細田多穂監修：『物理療法学テキスト 改訂第3版』。南江堂。2021年。

《参考図書》

Michelle H. Cameron, 渡部一郎訳：『EBM物理療法 原著第4版』。医歯薬出版。2015年。
千住秀明監修：『理学療法学テキストⅨ 物理療法 第2版』。九州神陵文庫。2009年。

《目標行動(SBO)》

1. 各物理療法の生理学的作用と適応を説明できる。
2. 各物理療法の禁忌と注意事項を説明できる。
3. 各物理療法を実施できる。

《学生の留意点》

各物理療法について、対面が可能となった場合は講義と実技を交互に展開して、理解を深める構成です。教科書を予習したうえで、動きやすい服装で参加して下さい。

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	物理療法Ⅱ概論	オリエンテーション, 「物理療法Ⅰ」のふりかえり
2	温熱療法1	超短波
3	温熱療法2	極超短波
4	温熱療法3	超音波
5	光線療法1	赤外線, 紫外線
6	光線療法2	レーザー
7	水治療法1	水治療法の理論
8	水治療法2	水治療法の演習
9	電気刺激療法1	電気刺激療法の概要
10	電気刺激療法2	治療的電気刺激
11	電気刺激療法3	経皮的末梢神経電気刺激療法
12	電気刺激療法4	干渉波電気刺激療法
13	電気刺激療法5	機能的電気刺激療法
14	徒手療法1	マッサージ
15	徒手療法2	ストレッチング

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法臨床推論				
担当者氏名	和島 英明				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者に必要な臨床推論を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として必要な臨床推論を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

妥当性のある理学療法を実施するために、医療面接や理学療法評価（各種検査・測定）の結果を元に、統合と解釈を行い、理学療法上の問題点を抽出し、理学療法プログラムを立案する一連の臨床思考過程を学ぶ。

《目標行動(SBO)》

- 1) 理学療法評価プロセスについて説明することができる。
- 2) 統合と解釈を文章化することができる。
- 3) 統合と解釈から、ICFに基づいて問題点を整理できる。
- 4) 各種疾患の病態を理解するとともに、それらの問題点（機能障害や活動制限など）を理解することができる。
- 5) 授業内で提示された疾患について、レジюмеをまとめることができる。

《成績評価の方法》

課題 5つ（20点×5＝100点）

《テキスト》

なし（配付資料を提示します）

《参考図書》

- 1) ゴルドマスターテキスト 理学療法評価学, メジカルビュー
- 2) 理学療法評価学 改定第6版, 金原出版
- 3) リハビリテーション基礎評価学 第2版, 羊土社
- 4) エッセンシャルキネシオロジー, 南江堂

《学生の留意点》

- ・本科目は、理学療法士の臨床思考や評価プロセスについて理解することが最大のポイントです。
- ・評価学関連、臨床医学関連の授業内容を振り返りながら、臨床思考を深めてください。
- ・後期科目のため、コロナの状況に応じて対面もしくはオンデマンド授業のどちらかです。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、和島（内部教員、理学療法士）が担当し、実務経験をいかした授業としています。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	
2	評価の進め方	トップダウン評価過程、ボトムアップ評価過程
3	医療面接と情報収集	医療面接の進め方
4	動作分析の進め方①	健常者の動作分析
5	動作分析の進め方②	疾患のある患者さんの動作分析
6	問題点抽出（ICF）	活動制限と機能障害の関係、問題点抽出方法
7	統合と解釈①	問題点抽出につながる臨床思考
8	統合と解釈②	問題点抽出につながる臨床思考
9	疾患別問題点①	脊椎圧迫骨折の病態と理学療法上の問題点
10	疾患別問題点②	変形性股関節症の病態と理学療法上の問題点
11	疾患別問題点③	関節リウマチの病態と理学療法上の問題点
12	疾患別問題点④	脳卒中片麻痺の病態と理学療法上の問題点
13	疾患別問題点⑤	パーキンソン病の病態と理学療法上の問題点
14	レジюме作成と発表①	提示症例のレジюме作成＋発表
15	レジюме作成と発表②	提示症例のレジюме作成＋発表

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	運動療法学				
担当者氏名	佐々木 亮平				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために運動療法技術を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

各理学療法治療学を発展させるために、理学療法の主要な治療法である運動療法を習得する。

《テキスト》

市橋則明編集：『運動療法学～障害別アプローチの理論と実際～第2版』。文光堂。2018。

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 運動療法の効果を挙げることができ、中止基準を説明できる
2. ストレッチを施行できる
3. 原理原則に沿った筋力増強練習を施行できる
4. 全身持久力と局所持久力に対する運動療法を施行できる
5. 筋緊張を落とし、リラクゼーションさせることができる
6. 理想的なアライメントを理解し、姿勢誘導できる

《学生の留意点》

治療学の1つになります。治療に必要なことは理論と技術です。治療をする意味から始まり、どの様に治療すればよいのか、どの様に行うのかを皆で考えていきましょう。理論を覚える時間と、実技の時間に分かれていきます。実技時間は感染対策としてのマスクやメガネの着用、白衣を忘れずに準備してきてください。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%)・実技試験(60%)にて評価
100%のうち60%に届かない場合再試験該当となる

《実務経験のある教員による科目》

当科目は沼尾拓、佐々木亮平（理学療法士）が担当し、その実務経験を治療学の知識・技術獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	理学療法士の治療	他職種の治療、理学療法士の治療 運動療法とは何か、運動療法の中止基準
2	関節可動域低下に対する理論	関節可動域が低下するとは、関節可動域制限の定義 関節可動域練習の効果と理論
3	関節可動域低下に対する運動療法①	6大関節に対するストレッチ
4	関節可動域低下に対する運動療法②	6大関節に対するストレッチ
5	関節可動域低下に対する運動療法③	6大関節に対するストレッチ
6	筋力低下に対する理論	筋力が低下する原因 筋力増強練習の効果と理論 RMとは 筋力増強練習の原理と原則
7	筋力低下に対する運動療法①	特異性の原理と過負荷の原理を用いた筋力増強練習
8	筋力低下に対する運動療法②	特異性の原理と過負荷の原理を用いた筋力増強練習
9	持久力低下に対する理論①	筋持久力・局所持久力とは何か、筋持久力の診かた、筋持久力に対する運動療法
10	持久力低下に対する理論	運動負荷試験体験、運動による呼吸循環動態の変化
11	リラクゼーション	筋弛緩の定義、筋弛緩の目的、筋弛緩の方法
12	姿勢調整	理想的な姿勢アライメント、姿勢障害に対する運動療法をどのように進めるか
13	歩行練習	歩行練習で使用する器具の紹介 跛行と歩行練習について
14	運動学習	運動学習の理論
15	まとめ	振り返りとテストに向けて

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	運動器系理学療法学				
担当者氏名	坂田 晋一、森田 浩章				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP2-に育つために専門職として必要な知識、臨床思考能力、コミュニケーション能力を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

運動器障害に対する理学療法評価および治療立案および実施するために、代表的な整形外科疾患の病態と障害に対する検査測定および治療プログラムを身につける。

《目標行動(SBO)》

1. 各関節の機能解剖と機能障害を踏まえた検査測定ができる
2. 運動器障害を引き起こす代表的な整形外科疾患を説明できる
3. 疾患名からリスク・運動器の障害・検査測定が想起できる
4. 基本的な運動療法の方法・留意点を理解し説明できる
5. 代表的な運動療法プログラムを想起でき、実施できる

《成績評価の方法》

実技試験100%

《テキスト》

神野哲也：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション。羊土社。2012。

《参考図書》

井樋栄二：標準整形外科学 第14版。医学書院。2020。
 S. Hoppenfeld：図解 四肢と脊椎の診かた。医歯薬出版。1984。
 市橋則明編：運動療法学 第2版。文光堂。2014。

《学生の留意点》

以下の注意点を気を付けながら、実技を習得すること
 ①事前準備 ②オリエンテーション ③体調確認 ④触れ方
 ⑤動かし方 ⑥動作指示 ⑦検査測定 ⑧治療 ⑨記録 ⑩結果説明
 ⑪片付け

《実務経験のある教員による科目》

・本科目は、森田・坂田（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業に反映している。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	授業説明・総論①	整形外科（骨折・脱臼・変形性関節症）リハにおける評価・治療
2	授業説明・総論②	整形外科（骨折・脱臼・変形性関節症）リハにおける評価・治療
3	上肢各論①	肩関節の評価・治療
4	上肢各論②	肩関節の評価・治療
5	上肢各論③	肩関節の症例問題
6	上肢各論④	肩関節の症例問題
7	上肢各論⑤	肘関節の評価・治療・症例問題
8	上肢各論⑥	肘関節の評価・治療・症例問題
9	上肢各論⑦	手関節・手部の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
10	上肢各論⑧	手関節・手部の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
11	下肢各論①	股関節の評価・治療
12	下肢各論②	股関節の評価・治療
13	下肢各論③	股関節の症例問題
14	下肢各論④	股関節の症例問題
15	下肢各論⑤	膝関節の評価・治療・症例問題

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	運動器系理学療法学				
担当者氏名	森田 浩章、坂田 晋一				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP2-に育つために専門職として必要な知識、臨床思考能力、コミュニケーション能力を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

運動器障害に対する理学療法評価および治療立案および実施するために、代表的な整形外科疾患の病態と障害に対する検査測定および治療プログラムを身につける。

《テキスト》

神野哲也：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション。羊土社。2012。

《参考図書》

井樋栄二：標準整形外科学 第14版。医学書院。2020。
 S. Hoppenfeld：図解 四肢と脊椎の診かた。医歯薬出版。1984。
 市橋則明編：運動療法学 第2版。文光堂。2014。

《目標行動(SBO)》

1. 各関節の機能解剖と機能障害を踏まえた検査測定ができる
2. 運動器障害を引き起こす代表的な整形外科疾患を説明できる
3. 疾患名からリスク・運動器の障害・検査測定が想起できる
4. 基本的な運動療法の方法・留意点を理解し説明できる
5. 代表的な運動療法プログラムを想起でき、実施できる

《学生の留意点》

以下の注意点を気を付けながら、実技を習得すること
 ①事前準備 ②オリエンテーション ③体調確認 ④触れ方
 ⑤動かし方 ⑥動作指示 ⑦検査測定 ⑧治療 ⑨記録 ⑩結果説明
 ⑪片付け

《成績評価の方法》

実技試験100%

《実務経験のある教員による科目》

・本科目は、森田・坂田（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業に反映している。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	下肢各論⑥	膝関節の評価・治療・症例問題
2	下肢各論⑦	下腿の評価・治療・症例問題
3	下肢各論⑧	下腿の評価・治療・症例問題
4	下肢各論⑨	足関節・足部の評価・治療・症例問題
5	下肢各論⑩	足関節・足部の評価・治療・症例問題
6	体幹各論①	上部脊椎の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
7	体幹各論②	下部脊椎の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
8	体幹各論③	下部脊椎の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
9	体幹各論④	下部脊椎の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
10	リウマチ各論①	関節リウマチの評価・治療・症例問題
11	リウマチ各論②	関節リウマチの評価・治療・症例問題
12	評価技能習得①	代表的な評価技能の練習を行う
13	評価技能習得②	代表的な評価技能の練習を行う
14	スポーツ理学療法①	スポーツ損傷・外傷に関わる理学療法（外部講師）
15	スポーツ理学療法②	スポーツ損傷・外傷に関わる理学療法（外部講師）

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	中枢神経系理学療法学Ⅰ				
担当者氏名	中山 雅和、山本 千夏				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP2-に育つために専門職として必要な知識を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

脳血管疾患の障害を理解し、その障害における評価方法についての知識・技術を習得し、基本的な介入方法を身につける

《テキスト》

石川朗・大畑光司・玉木彰 神経障害理学療法学Ⅰ 第2版

《参考図書》

鈴木恒彦・紀伊克昌・真鍋清則 著：『脳卒中の臨床神経リハビリテーション』。市村出版。2016年。、梶浦一郎・紀伊克昌・鈴木恒彦 著：『脳卒中の治療・実践神経リハビリテーション』。市村出版。2012年。、Oswald Steward著 伊藤博信他訳：『機能的神経科学』。丸善出版。2007年。、富田昌夫訳：『Steps to Follow』。シュプリンガーフェアラーク東京。2005年。

《学生の留意点》

*実技についてはジャージ・Tシャツ・短パン等で臨むこと。
 *脳血管障害患者を想定し、動作の誘導方法を身に付けて欲しい。
 *より多くの学生と実技を行うこと。

《目標行動(SBO)》

1. 脳画像を見て構造と機能が説明できる
2. 脳血管疾患における障害の説明と評価項目を列挙し、実施・記載することができる
3. 各姿勢・正常動作における構成要素を説明し、健常者に対し動作を誘導できる
4. 脳血管障害患者に対して、理学療法評価を立案・実施、及び、作改善のための課題呈示ができる

《成績評価の方法》

授業内課題 (20%)、実技試験 (30%)、筆記試験 (50%)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	脳血管障害のリハビリテーションの考え方、脳の解剖と生理と脳画像診断①
2	総論	脳血管障害のリハビリテーションの考え方、脳の解剖と生理と脳画像診断②
3	各論	脳血管障害の病態と障害の理解①
4	各論	脳血管障害の病態と障害の理解②
5	脳卒中の評価	筋緊張と腱反射の関係、連合反応、筋緊張の評価①
6	脳卒中の評価	筋緊張と腱反射の関係、連合反応、筋緊張の評価②
7	脳卒中の評価	Brunnstrom Recovery Stage による評価①
8	脳卒中の評価	Brunnstrom Recovery Stage による評価②
9	合併症	嚥下障害、二次的合併症①
10	合併症	嚥下障害、二次的合併症②
11	リスク管理	急性期のリスク管理、予後予測、治療の考え方①
12	リスク管理	急性期のリスク管理、予後予測、治療の考え方②
13	治療学基礎	急性期のポジショニング、機能障害に対するハンドリング①
14	治療学基礎	急性期のポジショニング、機能障害に対するハンドリング②
15	姿勢観察	脳血管障害患者の姿勢の評価①

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	中枢神経系理学療法学 I				
担当者氏名	山本 千夏、中山 雅和				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP2-に育つために専門職として必要な知識を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

脳血管疾患の障害を理解し、その障害における評価方法についての知識・技術を習得し、基本的な介入方法を身につける

《テキスト》

石川朗・大畑光司・玉木彰 神経障害理学療法学 I 第2版

《参考図書》

鈴木恒彦・紀伊克昌・真鍋清則 著：『脳卒中の臨床神経リハビリテーション』。市村出版。2016年。、梶浦一郎・紀伊克昌・鈴木恒彦 著：『脳卒中の治療・実践神経リハビリテーション』。市村出版。2012年。、Oswald Steward著 伊藤博信他訳：『機能的神経科学』。丸善出版。2007年。、富田昌夫訳：『Steps to Follow』。シェリング・ファーマー東京。2005年。

《目標行動(SBO)》

1. 脳画像を見て構造と機能が説明できる
2. 脳血管疾患における障害の説明と評価項目を列挙し、実施・記載することができる
3. 各姿勢・正常動作における構成要素を説明し、健常者に対し動作を誘導できる
4. 脳血管障害患者に対して、理学療法評価を立案・実施、及び、作改善のための課題呈示ができる

《学生の留意点》

- *実技についてはジャージ・Tシャツ・短パン等で臨むこと。
- *脳血管障害患者を想定し、動作の誘導方法を身に付けて欲しい。
- *より多くの学生と実技を行うこと。

《成績評価の方法》

授業内課題 (20%) , 実技試験 (30%) , 筆記試験 (50%)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	姿勢観察	脳血管障害患者の姿勢の評価②
2	基本動作の治療	脳血管障害患者の起居動作の評価とその誘導①
3	基本動作の治療	脳血管障害患者の起居動作の評価とその誘導②
4	基本動作の治療	脳血管障害患者の立ち上がり動作の評価とその誘導①
5	基本動作の治療	脳血管障害患者の立ち上がり動作の評価とその誘導②
6	歩行の治療	脳血管障害患者の歩行動作の評価とその誘導①
7	歩行の治療	脳血管障害患者の歩行動作の評価とその誘導②
8	包括的評価と高次脳機能障害	脳血管障害の包括的評価、高次脳機能障害の評価と治療①
9	包括的評価と高次脳機能障害	脳血管障害の包括的評価、高次脳機能障害の評価と治療②
10	評価演習	模擬症例に対する評価演習①
11	評価演習	模擬症例に対する評価演習②
12	治療演習	模擬症例に対する治療方法の検討①
13	治療演習	模擬症例に対する治療方法の検討②
14	治療演習	模擬症例に対する治療方法の検討③
15	治療演習	模擬症例に対する治療方法の実践④

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	発達系理学療法学				
担当者氏名	平井 孝明				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		☐ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取れるために専門職として障害者の診方を身につける。 ☐ DP2-に育つために専門職として治療や支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

発達障害領域の対象者に、理学療法を実施するために、代表的な小児疾患について理解する。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

毎回の授業時に紹介します

《目標行動(SBO)》

1. 小児疾患の特質について説明できる。 2. 臨床像より評価と問題点の指摘、治療の方向を提示できる。 3. 脳性麻痺の理学療法評価と治療について説明できる。 4. 重症心身障害の特質と合併症について説明できる。 5. 上記以外の代表的な小児疾患、臨床像、理学療法評価と治療について述べるができる。 6. 社会資源の種類と活用方法について説明できる。

《学生の留意点》

質疑応答、グループ発表、実技を行います。

《成績評価の方法》

ワークシート30%、質疑応答30%、課題発表20%、期末試験20%
ワークシート：毎回授業の最後に配布します。期限内に提出して下さい。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床思考能力獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	小児理学療法	小児理学療法総論
3	"	小児運動発達①
4	"	小児運動発達②
5	"	小児整形疾患
6	"	二分脊椎
7	"	染色体異常
8	"	脳性麻痺・痙直型①
9	"	脳性麻痺・痙直型②
10	"	脳性麻痺アテトーゼ型①
11	"	脳性麻痺アテトーゼ型②
12	"	脳性麻痺失調型
13	"	重症心身障害児①
14	"	重症心身障害児②
15	"	まとめ

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	神経筋系理学療法学				
担当者氏名	沼尾 拓				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		☐ DP1-となるために本科目では神経筋疾患の対象者の思いを汲み取れるために専門職として障害者の移方を身につける。 ☐ DP2-に育つために専門職として治療や支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GI0)》

神経筋系障害の対象者へ効果的な理学療法を実施するために、
 妥当な評価に基づいて理学療法プログラムを立案し、実施できる。

《テキスト》

PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 潮見泰蔵
 羊土社

《参考図書》

適宜紹介する

《目標行動(SB0)》

- ・神経筋系理学療法評価が実施できる。
- ・基本的な神経筋系理学療法プログラムを立案できる。
- ・基本的な神経筋系理学療法を実施できる。

《学生の留意点》

リハ医学・臨床神経学を復習の上、授業に臨むことを心掛ける。

《成績評価の方法》

筆記試験70%、実技試験30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	神経障害理学療法学総論①	中枢神経と末梢神経
2	神経障害理学療法学総論②	神経系障害患者への理学療法評価
3	脊髄損傷の基礎	脊髄損傷の病態
4	脊髄損傷完全型	完全型の評価と治療
5	脊髄損傷不全型	不全型の評価と治療
6	Parkinson病	Parkinson病の病態
7	Parkinson病とその関連疾患	Parkinson病とその関連疾患の評価と治療
8	脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症の評価と治療
9	多発性硬化症	多発性硬化症の評価と治療
10	筋ジストロフィー	筋ジストロフィーの評価と治療
11	筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症の評価と治療
12	多発性筋炎、皮膚筋炎	多発性筋炎、皮膚筋炎の評価と治療
13	ギランバレー症候群、重症筋無力症	ギランバレー症候群、重症筋無力症の評価と治療
14	末梢神経障害①	末梢神経障害の病態
15	末梢神経障害②	末梢神経障害の評価と治療

科目名	日常生活活動論				
担当者氏名	長屋 説、山形 哲行				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために生活者である対象者の「活動」・「参加」を評価し、支援する方法に関する知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

適切な日常生活活動の支援を実現させるために、理学療法の観点から無意識に行っている日常生活活動を分析・評価し、対象者それぞれの生活の質を維持・向上できるような治療技術を習得する。また、補助具の処方・指導を実施できるようになるために、目的や使用方法を理解する。

《テキスト》

奈良勲監修：『日常生活活動学・生活環境学第4版』、医学書院、2017年 千野一他：『脳卒中の機能評価－SIASとFIM「基礎編」』、医歯薬出版、2016年。※引用文献として「応用編」

《参考図書》

伊藤利之著：『ADLとその周辺』、医学書院、2015
大川嗣雄編：『日常生活動作（活動）』、医歯薬出版、1999

《目標行動(SBO)》

1. 日常生活活動の概念、範囲（セルフケア、移動、コミュニケーション、IADL）が説明できる。
2. 代表的なADL評価の各特徴を説明し実施できる。
3. セルフケアの動作分析ができる（健康者）
4. 歩行・移動補助具や車椅子の処方・指導ができる。
5. 動作の介助を標準的な方法で実施できる。
6. 代表的な疾患をモデルにADL指導ができる

《学生の留意点》

1. 実技の際は白衣（KC）着用・保護ゴーグル着用で参加して下さい。
2. グループにて課題を遂行するものもあります。時間調整など協力して進めて下さい。
3. レポートや課題の提出は時間を厳守して下さい。

《成績評価の方法》

＜講義と実技授業で構成されます＞
筆記試験 70% 実技試験30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

＜感染症対策等で制限がかかった場合＞

同時双方向やオンデマンド授業になることもあります。
指定された時間内に課題を提出しないと欠席になります。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コース・オリエンテーション	オリエンテーション・日常生活の概念・範囲/ICFによる理学療法評価
2	ADLの概念	ADLの概念/ICFによる理学療法評価（作成）/セルフケア
3	ADLを評価する 1	できるADLとしているADL, 目標とするADL/「できる」の定義
4	ADLを評価する 2	量的評価（BI）自立度を使用した日常生活活動の評価/質的評価と量的評価
5	ADLを評価する 3	量的評価（FIM）1
6	ADLを評価する 4	量的評価（FIM）2
7	ADLを評価する 5	量的評価（FIM）3
8	移動補助具1	移動補助具の種類と適応1（車椅子）
9	移動補助具2	移動補助具の種類と適応2（杖・松葉杖その他 障害物 階段）
10	移動補助具3	移動補助具の種類と適応3（杖・松葉杖その他 障害物 階段）起き上がり/立位
11	無意識のADLを視覚化してみる	起き上がり
12	移乗動作介助 2人全介助	移乗・移動動作を誘導する（全介助/2人：全介助/タオル1人：起き上がり/1人）
13	移乗動作介助 軽介助	移乗・移動動作を誘導する（軽介助）
14	移乗動作介助 全介助	移乗・移動動作を誘導する（全介助）
15	移乗動作介助 全介助	移乗・移動動作を誘導する（全介助）

科目名	日常生活活動論				
担当者氏名	長屋 説、山形 哲行				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ DP2に育つために生活者である対象者の「活動」・「参加」を評価し、支援する方法に関する知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

適切な日常生活活動の支援を実現させるために、理学療法の観点から無意識に行っている日常生活活動を分析・評価し、対象者それぞれの生活の質を維持・向上できるような治療技術を習得する。また、補助具の処方・指導を実施できるようになるために、目的や使用方法を理解する。

《テキスト》

奈良勲監修：『日常生活活動学・生活環境学第4版』。医学書院。2017年 千野一他：『脳卒中の機能評価－SIASとFIM「基礎編」』。医歯薬出版。2016年。※引用文献として「応用編」

《参考図書》

伊藤利之著：『ADLとその周辺』。医学書院。2015
大川嗣雄編：『日常生活動作（活動）』。医歯薬出版。1999

《目標行動(SBO)》

1. 日常生活活動の概念、範囲（セルフケア、移動、コミュニケーション、IADL）が説明できる。
2. 代表的なADL評価の各特徴を説明し実施できる。
3. セルフケアの動作分析ができる（健常者）
4. 歩行・移動補助具や車椅子の処方・指導ができる。
5. 動作の介助を標準的な方法で実施できる。
6. 代表的な疾患をモデルにADL指導ができる

《学生の留意点》

1. 実技の際は白衣（KC）着用・保護ゴーグル着用で参加して下さい。
2. グループにて課題を遂行するものもあります。時間調整など協力して進めて下さい。
3. レポートや課題の提出は時間を厳守して下さい。

《成績評価の方法》

＜講義と実技授業で構成されます＞
筆記試験 70% 実技試験30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

＜感染症対策等で制限がかかった場合＞
同時双方向やオンデマンド授業になることもあります。
指定された時間内に課題を提出しないと欠席になります。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	移乗動作介助 全介助	移乗・移動動作を誘導する（全介助/リスク管理）
2	移乗動作介助 全介助	移乗・移動動作を誘導する（全介助/リスク管理）
3	移乗動作介助 全介助	移乗・移動動作を誘導する（全介助/リスク管理）
4	移乗動作介助 環境整備	特殊な移乗・移動介助（介助バー・ずり落ち修正・T/B・リフター）
5	移乗動作介助 環境整備	特殊な移乗・移動介助（介助バー・ずり落ち修正・T/B・リフター）
6	ADLに必要な可動域 1	グループワーク 1 実際にどのような角度と動作が必要なのか調べてみよう1
7	ADLに必要な可動域 2	グループワーク 2 実際にどのような角度と動作が必要なのか調べてみよう1
8	ADLに必要な可動域 3	グループワーク 3 実際にどのような角度と動作が必要なのか調べてみよう1
9	ADLに必要な可動域 4	グループワーク 4 実際にどのような角度と動作が必要なのか調べてみよう1
10	ADLに必要な可動域 5	グループワーク 5 実際にどのような角度と動作が必要なのか調べてみよう1
11	ADLに必要な可動域 6	グループワーク 6 実際にどのような角度と動作が必要なのか調べてみよう1
12	ADLに必要な可動域発表	グループ発表
13	ADLに必要な可動域発表	グループ発表
14	移動困難な状況とは 1	移動介助の応用編（THA）
15	移動困難な状況とは 2	高齢者とADL（フレイル/ロコモティブシンドローム/サルコペニアなど）

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	義肢装具学				
担当者氏名	森田 浩章、小林 規彦				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取れるために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

1. 対象者の障害に応じた義肢装具の活用方法を知るために、構造や適合、ならびに義肢装具使用による理学療法を理解する
2. 臨床で義肢装具を活用するために、組立てや調整の技術を習得する

《テキスト》

細田多穂：『義肢装具学テキスト第3版』，南江堂，2018年。

《参考図書》

日本整形外科学会：『義肢装具のチェックポイント第8版』，医学書院，2014年

《目標行動(SBO)》

1. 義肢装具使用に至る経緯が説明できる
2. 各義肢装具の名称・パーツ・機能および適応が説明できる

《学生の留意点》

疾患や障害に対する理解が必要。知識としての理解とともに、理学療法士の技術として修得するよう心掛け理解を深める。

《成績評価の方法》

装具：筆記試験50% 義肢：毎回の課題25% 期末課題10%
 どちらも60%に満たない場合は再試験となります。

《実務経験のある教員による科目》

当科目担当は、臨床実務経験ならびに当該学会情報をもとに最新の知識や技術を紹介する授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	義肢学	義肢装具学総論①
2	〃	義肢装具学総論②
3	〃	切断者の評価①
4	〃	切断者の評価②
5	〃	大腿義足①
6	〃	大腿義足②
7	〃	大腿義足③
8	〃	大腿義足④
9	〃	大腿義足のギプスソケットの作成①
10	〃	大腿義足のギプスソケットの作成②
11	〃	足部と下腿義足①
12	〃	足部と下腿義足②
13	〃	股・膝・足部義足，障害者スポーツ①
14	〃	股・膝・足部義足，障害者スポーツ②
15	〃	義肢装具の給付・処方・臨床での理学療法の流れ①

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	義肢装具学				
担当者氏名	小林 規彦、森田 浩章				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取れるために専門職として障害者の歩方を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

1. 対象者の障害に応じた義肢装具の活用方法を知るために、構造や適合、ならびに義肢装具使用による理学療法を理解する
2. 臨床で義肢装具を活用するために、組立てや調整の技術を習得する

《テキスト》

細田多穂：『義肢装具学テキスト第3版』，南江堂，2018年。

《参考図書》

日本整形外科学会：『義肢装具のチェックポイント第8版』，医学書院，2014年

《目標行動(SBO)》

1. 義肢装具使用に至る経緯が説明できる
2. 各義肢装具の名称・パーツ・機能および適応が説明できる

《学生の留意点》

疾患や障害に対する理解が必要。知識としての理解とともに、理学療法士の技術として修得するよう心掛け理解を深める。

《成績評価の方法》

装具：筆記試験50% 義肢：毎回の課題25% 期末課題10%
 どちらも60%に満たない場合は再試験となります。

《実務経験のある教員による科目》

当科目担当は、臨床実務経験ならびに当該学会情報をもとに最新の知識や技術を紹介する授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	義肢学	義肢装具の給付・処方・臨床での理学療法の流れ②
2	装具学	下肢装具 総論①
3	〃	下肢装具 総論②
4	〃	短下肢装具①
5	〃	短下肢装具②
6	〃	長下肢装具・股装具・膝装具①
7	〃	長下肢装具・股装具・膝装具②
8	〃	靴型装具①
9	〃	靴型装具・体幹装具②
10	〃	下肢装具チェックアウト①
11	〃	下肢装具チェックアウト②
12	〃	上肢装具①
13	〃	上肢装具②
14	〃	体幹装具①
15	〃	体幹装具②

《専門分野 臨床実習》

科目名	地域理学療法学				
担当者氏名	坂田 晋一				
授業方法	実習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために地域包括ケアシステムに関する知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

地域包括ケアシステムでの理学療法士の役割を果たすために、地域の概念、法・制度、理学療法、健康維持・増進、予防、家族指導について学ぶ。

《テキスト》

資料を配布する

《参考図書》

大田仁史編集：『地域リハビリテーション論ver. 7』・三輪書店. 2018
重森健太編集：『地域リハビリテーション学』・羊土社. 2019
伊藤隆夫編集：『図解訪問理学療法技術ガイド』・文光堂. 2014
大淵修一監修：『予防理学療法学要論』医歯薬出版. 2018

《目標行動(SBO)》

- ・地域包括ケアシステム、災害リハビリテーションの概要を説明できる。
- ・地域リハビリテーションを説明できる。
- ・地域包括ケアシステムのなかでの理学療法士の役割を解説できる。
- ・在宅対象者の理学療法評価・理学療法が実施できる。
- ・施設入所者の理学療法評価・理学療法を実施できる。
- ・維持期/終末期の理学療法評価・理学療法を実施できる。

《学生の留意点》

- ・第7, 8回講義は形態測定しやすい服装に着替えること。
- ・第11回はノートパソコンを持参すること。
- ・講義中に課題を行わず、受動的な講義参加は自分だけでなく、協同学習者の学習を阻害する。共に学ぶ場を皆で創ること。
- ・地域に関する調査において、教員側で配慮する必要がある場合はお声掛けください。二次予防は他科目で学びます

《成績評価の方法》

提出課題で評価する。各回のリアクションペーパー15回×6点とJ-statMap&GoogleMapによる地域評価10点

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、河野、中村（作業療法士）下田、市川、坂田（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業の講義やグループワークにいかした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	介護予防における理学療法	用語について・地域理学療法ガイドライン・介護予防ガイド・総合事業・地域住民の通いの場の意義とプログラム内容
2	地域における多職種連携、地域活動	科目担当が関わっている新宿の事例紹介（新宿食支援研究会）・行政について
3	地域における多職種連携、地域活動	科目担当が関わっている新宿の事例紹介（新宿食支援研究会）・行政について
4	地域包括ケアシステム、地域調査	地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割、地域調査・地域ケアマッピング手法人口動態の確認（J-stat）・地域の医療・介護資源の確認（Google map）
5	地域包括ケアシステム、地域調査	地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割、地域調査・地域ケアマッピング手法人口動態の確認（J-stat）・地域の医療・介護資源の確認（Google map）
6	地域における社会医学技術学院	社会医学技術学院地域貢献委員会（さくら体操、小金井お散歩マップ作成）と一次予防
7	地域における社会医学技術学院	社会医学技術学院地域貢献委員会（さくら体操、小金井お散歩マップ作成）と一次予防
8	地域における社会医学技術学院	地域における健康維持増進活動について検討し、取り組む
9	地域における社会医学技術学院	地域における健康維持増進活動について検討し、取り組む
10	産業リハ（市川）	地域で働く人の健康維持増進活動について
11	産業リハ（市川）	地域で働く人の健康維持増進活動について
12	就労支援（中村）	障害者が働くことについて。ICFの参加領域の理解を深める
13	就労支援（中村）	障害者が働くことについて。ICFの参加領域の理解を深める
14	災害リハビリテーション（下田）	地域の防災と災害支援と災害リハビリテーション
15	災害リハビリテーション（下田）	地域の防災と災害支援と災害リハビリテーション

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習 I				
担当者氏名	福田 崇、長屋 説				
授業方法	実習	単位・回	2単位・0回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP2-に育つために検査測定を体験する。 ○ DP2-に育つために専門職としてビジネスマナーを身につける。 ○ DP3-に育つために地域包括ケアシステムの中での実習施設の役割について説明できる。 ○ DP4-に育つためにあるべき専門職の姿を考察する。			

《一般教育目標(GIO)》

地域包括ケアシステムを理解し、信頼性のある検査測定技術を研鑽するために、地域リハビリテーション現場を見学することと検査測定技術を対象者に応用する。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

指定なし

《目標行動(SBO)》

- ・地域包括ケアシステムの中での実習施設の役割を理解すること。
- ・実習施設での多職種の役割と連携を理解すること。
- ・対象者と職員のコミュニケーションのあり方を学ぶこと。
- ・基本的なビジネスマナーを実践できる。
- ・医療安全/個人情報保護を遵守できる。
- ・「検査測定技術」を体験すること。
- ・あるべき専門職の姿を考察できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導報告書・提出課題・実習後セミナー

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした実習としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1		・7～8月の2週間（45h*2）。 ・地域リハビリテーション施設での見学（1週間）と検査測定技術の体験（1週間）を実施。
2		肢長・周径測定、ROMテスト、徒手筋力テスト、神経学的テストなどの検査測定の実施と記録を数多く実施させる。
3		実施した検査測定項目ごとに、正常から逸脱した結果を抽出させ、知識の範囲内で原因分析をさせる。
4		各検査間の関連性を考察させる。
5		標準的な方法で起居動作介助や移乗・移動動作などの介助を数多く実習させる。
6		地域リハビリテーションの現場を見学する
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅱ				
担当者氏名	福田 崇、長屋 説				
授業方法	実習	単位・回	3単位・0回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP2-に育つために評価を体験できる。 ○ DP2-に育つために専門職としてビジネスマナーを身につける。 ○ DP3-に育つために実習施設の役割について説明できる。 ○ DP4-に育つためにあるべき専門職の姿を考察する。			

《一般教育目標(GIO)》

2年間の総復習を図るために、情報収集、検査測定、臨床推論、治療プログラム立案の一連の評価過程を実習する。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

- ・実習施設での多職種の役割と連携を理解すること。
- ・対象者と職員のコミュニケーションのあり方を学ぶこと。
- ・基本的なビジネスマナーを実践できる。
- ・対象者の問題を解決するために、基本的な情報収集、検査測定ができる。
- ・基本的な臨床推論により理学療法プログラムを立案できる。
- ・あるべき専門職の姿を考察できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導報告書・提出課題・実習後セミナー

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした実習としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1		・昼間部：2年次 1～2月の3週間 (45h*3)□ ・診療参加型臨床実習教育。□
2		・実習指導者に帯同し、業務の周辺より参加させて頂く。
3		・対象者への侵襲程度が低いレベルから、徐々に、情報収集、検査測定、臨床推論、治療プログラム立案の一連の評価過程を実習する。□
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	問題解決のための研究法				
担当者氏名	沼尾 拓				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

生涯にわたって科学的、論理的思考力を発展し続ける自己調整学習の習慣を養成するために、問題解決のための研究法を学ぶ。

《テキスト》

対馬栄輝：最新理学療法学講座 理学療法研究法。医歯薬出版。2021年

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

- ・医学統計学の基本を習得する。
- ・EBMの手法を活用できる。
- ・理学療法に関する基本的な研究を実施できる。

《学生の留意点》

1年次の「情報社会と情報リテラシー」の授業を基礎として進めていく授業になりますので前もって復習してから望みましょう。授業時間枠だけでは学習時間が不足しますので、課外においてもグループ学習に努めるましょう

《成績評価の方法》

課題100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	プロフェッショナルとは・研究の必要性・EBPTとは・研究から発表までの流れ
2	研究倫理	研究倫理審査、IC、利益相反
3	研究課題の設定	疑問の定式化
4	文献レビュー	文献レビューの方法
5	文献レビュー	文献レビューの実際
6	研究の種類	各種研究デザイン
7	統計 1	基本統計量・差の検定・相関・回帰分析
8	統計 2	正規分布に従わない場合の統計
9	統計 3	多変量解析
10	研究	研究計画書作成（対象者の決定、研究資源確保）
11	研究	予備実験、計画修正
12	研究	本実験
13	研究	データ処理・報告書（抄録）作成
14	研究	発表準備
15	研究	発表

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	疾病管理論				
担当者氏名	吉本 奈央、荒木 満美子、小金井消防署救急係				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP2-に育つために専門職として必要な知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

医療職である療法士として疾病予防とその管理を理解するために、栄養学、臨床薬学、救急救命医学を学ぶ。

《テキスト》

授業の中で資料を配布する。

《参考図書》

授業のなかで紹介する。

《目標行動(SBO)》

到達目標：1. 栄養学の基礎知識と医療現場での栄養療法の基礎を理解できる。2. 薬の概要を学び、生体内動態を理解できる。3. 上級救命講習を受講し、上級救命技能認定証を入手できる。

《学生の留意点》

理学療法業務の中で、遭遇する重要な知識、技術を扱います。短期間ですが、集中して習得してください。よく分からないことやもっと知りたいことを沢山つくり、各講師と対話をするようお願いします。また、上級救命講習費用のため、2,800円が必要です。

《成績評価の方法》

栄養学、臨床薬学、救急救命医学がそれぞれ1/3ずつ評価し、合算の上、評定をつける。

《実務経験のある教員による科目》

実務経験がある管理栄養士、薬剤師、そして救急救命士が担当する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	栄養学①	栄養学概論 (栄養とは・消化と吸収)
2	栄養学②	栄養素の種類と機能Ⅰ (三大栄養素)
3	栄養学③	栄養素の種類と機能Ⅱ (ビタミン・ミネラル)
4	栄養学④	運動と栄養 (エネルギー代謝・スポーツ栄養)
5	栄養学⑤	リハビリテーション栄養 (リハビリテーション栄養とは・栄養評価・栄養ケアプロセス)
6	臨床薬学①	薬とは
7	臨床薬学②	薬の分類
8	臨床薬学③	薬の生体内動態 (吸収、分布)
9	臨床薬学④	薬の生体内動態 (代謝、排泄)
10	臨床薬学⑤	疾患に対する薬物療法
11	救命救急医学①	上級救命講習①
12	救命救急医学②	上級救命講習②
13	救命救急医学③	上級救命講習③
14	救命救急医学④	上級救命講習④
15	救命救急医学⑤	上級救命講習⑤

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	精神医学概論				
担当者氏名	河野 達哉				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

精神疾患のある対象者を的確に理解し、作業療法へ展開するために、主な精神障害および疾病の症状、それに対する一般的な治療について学ぶ

《テキスト》

上野 武治：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版』、医学書院。

《参考図書》

尾崎 紀夫：『標準精神医学 第7版』、医学書院、2018
大熊 輝雄：『現代臨床精神医学改訂第12版』、金原出版株式会社、2013

《目標行動(SBO)》

1. 精神医学の定義と関連領域について説明できる
2. 精神障害および精神障害者に関する概念について説明できる
3. 精神障害の成因と分類について説明できる
4. 精神障害の際に出現する精神症状について説明できる
5. 主な疾患についての診断と評価、治療について説明できる
6. 精神障害者が利用できる精神医療・福祉制度について説明できる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野におけるセラピストとしての実務の経験を、精神医学の基礎という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	精神医学とは・精神障害の成因と分類
2	〃	精神機能の障害と精神症状
3	〃	精神障害の診断と評価
4	各論	脳器質性精神障害
5	〃	症状性精神障害・精神作用物質
6	〃	統合失調症（1）
7	〃	統合失調症（2）
8	〃	気分（感情）障害
9	〃	神経症性障害（不安症・強迫症・解離症・身体症状症他）
10	〃	パーソナリティ障害
11	〃	精神遅滞 心理的発達の障害
12	〃	精神遅滞 心理的発達の障害
13	〃	精神障害者の雇用促進と就労支援
14	〃	精神科保健・福祉の制度について
15	〃	精神障害リハビリテーション 各種治療法まとめ

《専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリテーションの理念》

科目名	保健医療福祉連携論				
担当者氏名	小宮山 一樹				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GI0)》

保健/医療/福祉の現場におけるチームワークの構築/目標達成のため、多職種連携とそのコンピテンシーを修得する。

《テキスト》

とくになし

《参考図書》

はじめてのIP・連携を学びはじめる人のためのIP入門/大嶋伸雄

《目標行動(SB0)》

- 1 連携の必要性について説明できる。
- 2 多職種の仕事とその専門性について説明できる。
- 3 チーム医療の中の理学療法士の専門性について説明できる。
- 4 各病期の多職種連携について説明できる。
- 5 多職種と連携し事例について最適な関わりを想定することができる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

レポート50% 筆記50% (合計60%未満の学生は再試験とする)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション, 総論	保健医療福祉の今日的課題を踏まえ、関連する職種が連携する意義を学ぶ。そのうえで、理学療法士との関連を理解し、コース全体の流れ、そして到達目標を理解する。
2	過去の「連携」経験	自分の過去の経験から他人と「連絡」「連携」して行ったことを思い出し、共有する。
3	「連携」の必要性 「チームビルディング」	「連携」の成功例を想定し、その必要性について考え、「チームビルディング」について学ぶ。
4	多職種を理解する①	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・ソーシャルワーカーの仕事とその専門性
5	多職種を理解する②	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・ソーシャルワーカーの仕事とその専門性
6	理学療法士の役割	チーム医療の中の理学療法士の役割、備えるべき能力、専門性について考える。
7	急性期病院の多職種連携	急性期病院における多職種連携の実践について講義いただく。
8	回復期病院の多職種連携	臨床に従事する理学療法士を外来講師として招聘し、多職種連携の実践について講義いただく。
9	訪問リハビリテーションの多職種連携	臨床に従事する理学療法士を外来講師として招聘し、多職種連携の実践について講義いただく。
10	ワークショップ① 都立府中看護専門学校学生と	事例1 回復期リハビリテーション病棟での多職種連携
11	ワークショップ② 都立府中看護専門学校学生と	〃
12	ワークショップ③ 都立府中看護専門学校学生と	事例2 多職種間での衝突事例
13	ワークショップ④ 都立府中看護専門学校学生と	〃
14	リフレクション	リフレクション
15	まとめ	まとめ

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習Ⅳ				
担当者氏名	山形 哲行、森田 浩章				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

臨床実習で具体的な事例を通じてその適応を学ぶために、必要な最低限の知識・技術（基礎と代表的な疾患における）・態度を身に付ける

《テキスト》

適宜資料を配布する

《参考図書》

適宜紹介する

《目標行動(SBO)》

1. 基礎医学、臨床医学の知識の臨床応用を説明できる
2. 基本的な評価・治療が実施できる
3. 言葉遣いや振る舞いの適切さ・不適切さが判断できる
4. 面接及び検査測定を行う際にリスク管理ができる

《学生の留意点》

臨床の場で行う実践演習であることを自覚し、主体的な学びを心がけること授業時間外の復習によってその成果が大きく左右されますので、積極的な取り組みを期待します

《成績評価の方法》

実技試験100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は山形哲行、森田浩章（理学療法士）が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	実習前実技演習①	整形外科患者への理学療法評価①
2	実習前実技演習②	整形外科患者への理学療法評価②
3	実習前実技演習③	整形外科患者への治療介入
4	実習前実技演習④	中枢神経疾患患者への理学療法評価①
5	実習前実技演習⑤	中枢神経疾患患者への理学療法評価②
6	実習前実技演習⑥	中枢神経疾患患者への治療介入
7	実習前演習①	プロフェッショナリズム、心構え、コミュニケーション
8	実習前演習②	感染対策標準予防策
9	実習前演習③	カルテの記載
10	実習前演習④	クリニカルリーズニング（初期評価～中間評価～最終評価へのアセスメント）
11	実習前演習⑤	実習ⅢABに向けての準備
12	実習後演習①	実習ⅢAの振り返り
13	実習後演習②	実習ⅢAの振り返りと実習ⅢBへの準備
14	実習後演習③	実習ⅢBの振り返り
15	実習後演習④	実習ⅢBの振り返り

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習 V				
担当者氏名	山形 哲行、森田 浩章				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

臨床実習で具体的な事例を通じてその適応を学ぶために、必要な最低限の知識・技術（基礎と代表的な疾患における）を身に付ける

《テキスト》

PT・OT国家試験共通問題 できるもん・でたもん 「基礎医学」
PT・OT国家試験共通問題 できるもん・でたもん 「臨床医学」

《参考図書》

国試の達人2023運動解剖生理学編
国試の達人2023臨床医学編
国試の達人2023理学療法編

《目標行動(SBO)》

1. 基礎医学・臨床医学・理学療法の知識を確認・説明できる
2. 基礎医学・臨床医学・理学療法の知識の臨床応用を説明できる

《学生の留意点》

基礎医学と臨床医学を理解するためのグループ学習を行い、知識の定着を確認することが繰り返されます

《成績評価の方法》

筆記テスト100%（小テスト・まとめテストに配分していく）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は山形哲行、森田浩章（理学療法士）が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	科目オリエンテーション テスト	授業ガイダンス 確認テスト グループワーク（以下G.W）開始
2	運動機能学と臨床医学①	運動機能学と整形外科学の小テスト①および復習（G.W）
3	運動機能学と臨床医学②	運動機能学と整形外科学の小テスト②および復習（G.W）
4	解剖生理学（動物機能） と 臨床医学①	解剖生理学（動物機能）と中枢神経・筋疾患、人間発達学の小テスト③および復習（G.W）
5	解剖生理学（動物機能） と 臨床医学②	解剖生理学（動物機能）と中枢神経・筋疾患、人間発達学の小テスト④および復習（G.W）
6	解剖生理学（植物機能） と 臨床医学①	解剖生理学（植物機能）と一般内科学の小テスト⑤および復習（G.W）
7	解剖生理学（植物機能） と 臨床医学②	解剖生理学（植物機能）と一般内科学の小テスト⑥および復習（G.W）
8	臨床医学①	病理学、リハビリテーション概論の小テスト⑦および復習（G.W）
9	臨床医学②	精神・心理学の小テスト⑧および復習（G.W）
10	理学療法学①	評価学、運動療法、物理療法学の小テスト⑨および復習（G.W）
11	理学療法学②	整形外科PT学の小テスト⑩および復習（G.W）
12	理学療法学③	ADL、義肢・装具学、基礎理学療法学の小テスト⑪および復習（G.W）
13	理学療法学④	内部障害PT学の小テスト⑫および復習（G.W）
14	理学療法学⑤	神経・筋、小児PT、脊髄損傷PT学の小テスト⑬および復習（G.W）
15	理学療法学⑥	脳血管障害PT学の小テスト⑭および復習（G.W）

《専門分野 理学療法管理学》

科目名	理学療法管理学				
担当者氏名	小島 肇				
授業方法	実習	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

社会から求められる理学療法を提供し続けるために、理学療法士として職場管理において求められる管理業務の基本、理学療法士教育の基本について学ぶ。

《テキスト》

斎藤秀之，能登真一編集「リハビリテーション管理学」，医学書院 2020年。

《参考図書》

斎藤昭彦，下田信明編集「リハビリテーション管理学」，羊土社 2020年。

《目標行動(SBO)》

1. 理学療法に関わる社会保障制度を説明できる。 2. 基本的な職業倫理を習得できる。 3. 業務管理について説明できる。 4. 医療の質とリスクマネジメントを説明できる。 5. 養成教育と卒後教育を説明できる。 6. 目指すべき職場を創造できる。

《学生の留意点》

理学療法士を業として生活するために、また組織として理学療法士が社会に貢献するために、必要な知識を学ぶ科目です。

《成績評価の方法》

小テスト 45点：第3回目10点，第4回目5点，第7回目15点，第9回10点，第10回5点 全5回。
グループワーク 55点： プロセス3回×5点， 成果物40点

《実務経験のある教員による科目》

本科目は理学療法士が担当し，その実務経験から臨床現場に即した授業を展開します。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	なぜ，管理学を学ぶのか	理想の職場って，どんな？
2	社会保障制度①	医療保険制度は職場にどんな関係があるの？
3	社会保障制度②	介護保険，予防，保健との関わりは？
4	職業倫理	職業倫理のある職場とは？
5	業務管理①	組織，業務を固めよう
6	業務管理②	コンプライアンス，労務管理を考えよう
7	業務管理③	組織マネジメントはどうしよう？
8	医療の質とリスクマネジメント	医療の質とリスクマネジメントとは？
9	各論 リスクマネジメント	管理と実践の観点から考えよう
10	養成教育と卒後教育制度	教育制度を採り入れよう
11	ワーク① 理想の職場を創ろう	今までの議論を統合しよう
12	事例紹介	城山病院の紹介
13	ワーク② 理想の職場を創ろう	事例を学んで，深めよう
14	ワーク③ 理想の職場を創ろう	プレゼン資料を作成しよう
15	ワーク④ 理想の職場を創ろう	さあ，発表！

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	中枢神経系理学療法Ⅱ				
担当者氏名	山形 哲行				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

脳血管障害患者に対して理学療法を実施できるようになるために基礎的な治療技術を習得する。

《テキスト》

鈴木恒彦・紀伊克昌・真鍋清則編
脳卒中の臨床神経リハビリテーション 市村出版

《参考図書》

随時紹介していく

《目標行動(SBO)》

1. 姿勢・動作改善のためのハンドリングが実施できる
2. 脳血管障害患者に対する評価から治療手段の選択までの一連の流れを組み立てることができる
3. 脳血管障害患者のADL改善のための治療手段を選択できる
4. 脳血管障害患者に対して、理学療法治療計画を立案し、一部を実施できる

《学生の留意点》

- *患者を想定し、動作の誘導方法を身に付けて欲しい。
- *実技についてはジャージ・Tシャツ等で臨むこと。
- *より多くの学生と実技を行うこと。

《成績評価の方法》

実技(40%)、筆記テスト(60%)、で総合的に評価する

《実務経験のある教員による科目》

当科目は山形哲行(理学療法士)が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	治療学総論①	脳血管障害患者の理学療法に必要な神経機構、治療戦略、ハンドリングの基本①
2	治療学総論②	脳血管障害患者の理学療法に必要な神経機構、治療戦略、ハンドリングの基本②
3	治療学各論①	脳血管障害患者の理学療法評価①
4	治療学各論②	脳血管障害患者の理学療法評価②
5	治療学各論③	ハンドリング：寝返り～起き上がり①
6	治療学各論④	ハンドリング：寝返り～起き上がり②
7	治療学各論⑤	ハンドリング：座位～立ち上がり①
8	治療学各論⑥	ハンドリング：座位～立ち上がり②
9	治療学各論⑦	バランス反応の再教育(座位バランス)
10	治療学各論⑧	バランス反応の再教育(立位バランス)
11	歩行の神経機構	歩行の神経学的背景について
12	治療学各論⑨	ハンドリング：歩行
13	脳血管障害のエビデンス	脳血管疾患患者のEBPT (Evidence Based Physical Therapy)
14	症例検討①	脳血管障害患者の模擬症例検討①
15	症例検討②	脳血管障害患者の模擬症例検討②

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	日常生活活動論演習				
担当者氏名	中山 雅和				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ DPI-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

理学療法的視点から各疾患の特性を理解し、対象者の日常生活活動を的確に評価できるようになるために、それぞれの個性・多様性を踏まえたADL指導を習得する。

《テキスト》

奈良勲監修：標準理学療法学専門分野『日常生活活動学・生活環境学第4版』。医学書院。2017年。

《参考図書》

伊藤利之著：『ADLとその周辺 第3版』 医学書院。2015年。

《目標行動(SBO)》

1. 疾患の特性に応じたADLの特徴、基本動作の方法、リスクを述べることができる。
2. 疾患の特性に応じたADLの評価を実施することができる。
3. 対象者の基本動作を力学的視点で分析することができる。
4. 対象者個人にあわせたADL（環境を含む）指導ができる。
5. 疾患の特性を理解した上で、適切な援助方法を（本人及び支援者に）提示できる。

《学生の留意点》

実技の際は動きやすい服装で参加すること。ジーパンやスカートは不可。

《成績評価の方法》

筆記試験80% 実技試験20%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	疾患別各論	【脳血管障害の特性を理解する】①
2	疾患別各論	【脳血管障害の特性を理解する】②
3	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】①
4	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】②
5	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】③
6	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】④
7	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】⑤
8	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】⑥
9	疾患別各論	【関節リウマチの疾患特性とADLの実際】①
10	疾患別各論	【関節リウマチの疾患特性とADLの実際】②
11	疾患別各論	【関節リウマチに対するADL指導と自助具】①
12	疾患別各論	【関節リウマチに対するADL指導と自助具】②
13	疾患別各論	【シーティング】①
14	疾患別各論	【シーティング】②
15	疾患別各論	【高齢者の特性とADL指導】

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	義肢装具学演習				
担当者氏名	小林 規彦、森田 浩章				
授業方法	実技	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

1. 義肢装具使用による理学療法を知るために、模擬体験を通して理解を深める
2. 義肢装具の材料や機能を理解するために、模擬的な制作過程を実施する

《テキスト》

『義肢装具学テキスト』第3版, 南江堂, 2018年

《参考図書》

日本整形外科学会:『義肢装具のチェックポイント第8版』, 医学書院, 2014年

《目標行動(SBO)》

1. 義肢装具使用時における諸問題を説明できる
2. 各義肢装具の選択・チェックアウトができる

《学生の留意点》

理学療法における治療法の1つとして装具を用いることができるように知識だけでなく、装着しながら慣れる

同様に、義肢装着者に対する理学療法全般を経験とともに知識や技術を定着するよう取り組む

《成績評価の方法》

装具:実技試験 50% 義肢:課題提出 50%
どちらも60%に満たない場合は再試験となります。

※実技演習に関しては、実施時の状況により内容を検討する必要があるため事前説明を確認するようにする。

《実務経験のある教員による科目》

当科目担当は、臨床実務経験ならびに当該学会情報をもとに最新の知識や技術を紹介する授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	義肢学	下腿義足・大腿義足歩行の特徴①
2	〃	下腿義足・大腿義足歩行の特徴②
3	〃	異常歩行①
4	〃	異常歩行②
5	〃	義手の構造・機能・ADL①
6	〃	義手の構造・機能・ADL②
7	装具学	長下肢装具・短下肢装具①
8	〃	長下肢装具・短下肢装具②
9	〃	股装具・膝装具①
10	〃	股装具・膝装具②
11	〃	体幹装具・上肢装具①
12	〃	体幹装具・上肢装具②
13	義肢装具全般①	国家試験出題形式の解説
14	義肢装具全般②	国家試験出題形式の解説
15	義肢装具全般③	まとめ、実技試験説明

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	内部系理学療法学				
担当者氏名	林 佑樹、小島 肇				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		☐ DP1-となるために本科目では内部疾患の対象者の思いを汲み取るために専門職として障害者の診方を身につける。 ☐ DP2-に育つために専門職として治療や支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

循環器系・呼吸器系・代謝系を中心とするがんを含めた内部障害を有する対象者の理学療法評価と治療を実施するために、それらの病態・障害特性を理解したうえで、各理学療法を修得すること。

《目標行動(SBO)》

1. 内部障害対象者の病態・障害特性を説明できる。
2. 内部障害対象者の理学療法評価ができる。
3. 内部障害系理学療法を立案できる。
4. 呼吸理学療法手技を実施できる。

《成績評価の方法》

筆記試験70%，実技試験30%

《テキスト》

高橋哲也編：『最新理学療法学講座 内部障害理学療法学』。医歯薬出版。2021年。

《参考図書》

心臓リハビリテーション必携-指導士認定試験準拠-。日本心臓リハビリテーション学会 2011。千住他監修：『呼吸理学療法標準手技』。医学書院。2008年。『呼吸リハビリテーションマニュアル-運動療法- 第2版』。照林社 2012。¥3,996 清野他監修：『糖尿病の理学療法』。メディカルレビュー 2015。¥5,616

《学生の留意点》

臨床医学の中核をなす内部障害系疾患を理解することは、他のリハビリテーション適応疾患や障害に対する理学療法を発展させる基礎になります。重要な項目を授業の中で取り上げ、他の項目については教科書を用いて主体的に学修することが求められます。必ず予習して参加して下さい。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	呼吸機能障害と理学療法	呼吸器の解剖生理学，血液ガスの解釈
2	〃	呼吸器の解剖生理学，血液ガスの解釈
3	〃	呼吸機能評価：フィジカルアセスメント，スパイロメトリー，フローボリューム曲線
4	〃	呼吸機能評価：フィジカルアセスメント，スパイロメトリー，フローボリューム曲線
5	〃	呼吸器不全の病態，呼吸器疾患：慢性閉塞性肺疾患，間質性肺炎，誤嚥性肺炎
6	〃	呼吸器不全の病態，呼吸器疾患：慢性閉塞性肺疾患，間質性肺炎，誤嚥性肺炎
7	〃	急性呼吸不全：人工呼吸器，酸素療法
8	〃	急性呼吸不全：人工呼吸器，酸素療法
9	〃	慢性呼吸不全
10	〃	慢性呼吸不全
11	〃	呼吸リハビリテーション：コンディショニング，呼吸介助法，排痰手技
12	〃	呼吸リハビリテーション：コンディショニング，呼吸介助法，排痰手技
13	〃	症例検討
14	〃	症例検討
15	循環機能障害と理学療法	循環機能評価，フィジカルアセスメント

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	内部系理学療法学				
担当者氏名	小島 肇、林 佑樹				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		☐ DP1-となるために本科目では内部疾患の対象者の思いを汲み取るために専門職として障害者の診方を身につける。 ☐ DP2-に育つために専門職として治療や支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

循環器系・呼吸器系・代謝系を中心とするがんを含めた内部障害を有する対象者の理学療法評価と治療を実施するために、それらの病態・障害特性を理解したうえで、各理学療法を修得すること。

《目標行動(SBO)》

1. 内部障害対象者の病態・障害特性を説明できる。
2. 内部障害対象者の理学療法評価ができる。
3. 内部障害系理学療法を立案できる。
4. 呼吸理学療法手技を実施できる。

《成績評価の方法》

筆記試験70%, 実技試験30%

《テキスト》

高橋哲也編：『最新理学療法学講座 内部障害理学療法学』。医歯薬出版。2021年。

《参考図書》

心臓リハビリテーション必携-指導士認定試験準拠-。日本心臓リハビリテーション学会 2011。千住他監修：『呼吸理学療法標準手技』。医学書院。2008年。『呼吸リハビリテーションマニュアル-運動療法- 第2版』。照林社 2012。¥3,996 清野他監修：『糖尿病の理学療法』。メディカルレビュー 2015。¥5,616

《学生の留意点》

臨床医学の中核をなす内部障害系疾患を理解することは、他のリハビリテーション適応疾患や障害に対する理学療法を発展させる基礎になります。重要な項目を授業の中で取り上げ、他の項目については教科書を用いて主体的に学修することが求められます。必ず予習して参加して下さい。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	循環機能障害と理学療法	循環機能評価、フィジカルアセスメント
2	〃	運動生理学評価、心電図
3	〃	運動生理学評価、心電図
4	〃	虚血性心疾患
5	〃	虚血性心疾患
6	〃	心不全
7	〃	心不全
8	〃	閉塞性動脈硬化症
9	〃	閉塞性動脈硬化症
10	〃	症例検討（武市先生）
11	〃	症例検討（武市先生）
12	代謝障害と理学療法	糖尿病
13	〃	糖尿病
14	〃	慢性腎臓病
15	〃	慢性腎臓病

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	高齢期理学療法学				
担当者氏名	和島 英明				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		☐ DP1-となるために本科目では高齢期にある対象者の思いを汲み取れるために専門職として障害者の診方を身につける。 ☐ DP2-に育つために専門職として治療や支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解し、高齢者を対象とした理学療法評価や治療立案を実施できるようにするために、高齢者の特性や代表的な疾患について理解する。

《テキスト》

なし（資料を配付します）

《参考図書》

- 1) 高齢者理学療法学，メディカルビュー
- 2) 高齢者理学療法学テキスト，南江堂
- 3) 老人のリハビリテーション，医学書院

《目標行動(SBO)》

- 1) 高齢者の特性や代表的な疾患について説明できる。
- 2) 高齢者の心身機能評価について説明できる。
- 3) 高齢者の生活活動能力評価について説明できる。
- 4) 高齢者に対する理学療法について説明できる。
- 5) 高齢者の介護予防について説明できる。

《学生の留意点》

・医療における臨床でも地域における介護予防でも、高齢者を対象とした場面は非常に多く、理学療法の知識とスキルは役立ちます。
 ・高齢者の特性を理解し、また高齢者特有の疾患を理解するとともに、それらの評価や理学療法について習得することは重要です。

《成績評価の方法》

課題評価100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、和島（内部教員、理学療法士）が担当し、実務経験をいかした授業としています。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	高齢者の基礎的理解	高齢者の定義・分類、身体的特徴、認知・精神的特徴など
2	加齢に伴う心身機能の変化	加齢に伴う生理機能、体力、姿勢、歩行機能などの変化
3	老年症候群	老年症候群の分類、代表的な老年症候群など
4	高齢者の機能評価	高齢者の心身機能評価、生活活動能力評価など
5	高齢者の健康寿命延伸と介護予防	一次・二次・三次予防、サルコペニア、フレイル、市町村の介護予防事業など
6	高齢者に対する理学療法	各種トレーニングなど
7	運動療法・理学療法のエビデンス	低強度筋力トレーニング、ウォーキング、その他各種運動療法のエビデンス
8	高齢者の理学療法を実施するうえでの留意事項	リスク管理、栄養管理、運動強度設定など
9	高齢者の骨関節疾患と理学療法①	大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折
10	高齢者の骨関節疾患と理学療法②	変形性膝関節症など
11	高齢者の中枢神経障害と理学療法①	脳血管疾患など
12	高齢者の中枢神経障害と理学療法②	パーキンソン病
13	高齢者の中枢神経障害と理学療法③	認知症
14	高齢者の呼吸器障害と理学療法	呼吸器疾患
15	高齢者のその他の障害と理学療法	排尿障害、褥瘡など

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	理学療法技術論				
担当者氏名	複数外来講師、藤川 明代				
授業方法	実技	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》
社会で求められる理学療法技術を習得するために、最先端の理学療法技術を学ぶ。

《テキスト》
資料があれば、授業の中で配布する。

《参考図書》
授業中に提示する。

《目標行動(SBO)》
各テーマの理学療法技術について、体験できる。

《学生の留意点》
特に指定がない限り、実技練習ができる服装で参加すること。

《成績評価の方法》
各コマの課題によって評価する。

《実務経験のある教員による科目》
実務経験がある理学療法士が担当する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	疼痛①	急性疼痛に対する理学療法（江原）
2	疼痛②	慢性疼痛に対する理学療法（江原）
3	気道吸引①	気道吸引（南雲）
4	気道吸引②	気道吸引（南雲）
5	PNF①	Proprioceptive Neuromuscular Facilitation（松田）
6	PNF②	Proprioceptive Neuromuscular Facilitation（松田）
7	ロボットリハビリテーション①	ロボットリハビリテーション（佐治）
8	ロボットリハビリテーション②	ロボットリハビリテーション（佐治）
9	PNF③	Proprioceptive Neuromuscular Facilitation（松田）
10	PNF④	Proprioceptive Neuromuscular Facilitation（松田）
11	障がい者スポーツ①	（藤川）
12	障がい者スポーツ②	（藤川）
13	精神疾患①	精神疾患に対する理学療法（細井）
14	精神疾患②	精神疾患に対する理学療法（細井）
15	がんのリハビリテーション①②	がんのリハビリテーションにおける理学療法（ ）

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅲ-A				
担当者氏名	山形 哲行、森田 浩章				
授業方法	実習	単位・回	7単位・0回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ DP1-となるために本科目では患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP2-に育つために評価を体験できる。 ○ DP2-に育つために専門職としてビジネスマナーを実践する。 ○ DP3-に育つために実習施設の役割について説明できる。 ○ DP4-に育つためにあるべき専門職の姿を考察できる。				

《一般教育目標(GIO)》

各理学療法の理論と実践を最終的に統合し、指導者の助言のもと、主体的に治療プログラムを計画し、実施できるようになる。
理学療法士および専門職業人としての適切な態度や行動を身につける。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

担当症例に即した

1. 理学療法評価ができる。
2. 統合と解釈、問題点の抽出、目標設定ができる。
3. 治療プログラムを基本的な範囲で立案できる
4. 治療プログラムを実施できる。記録・報告が行える。
5. 必要に応じて当初の治療プログラムを変更できる。
6. 専門職業人として適切な態度や行動をとることができる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導報告書70%・実習後セミナー30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした実習としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1		担当症例の《初期評価（対象者・疾患の理解、各種検査測定の実施、記録、統合と解釈）、目標設定、治療プログラムの立案、実施、再評価、最終評価など》を実施
2		指導理学療法士の責任と指導のもとに偏りなく各疾患、各病期、各年齢層の対象者について身体的、心理的、社会的状況を十分に把握
3		疾患から生じるとされる一般的な種々の障害と実際に対象者が示す種々の障害との共通点、相違点に気づかせ、あくまでも対象者の全体像を把握することに努める
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅲ-B				
担当者氏名	山形 哲行、森田 浩章				
授業方法	実習	単位・回	7単位・0回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○ DP1-となるために本科目では患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP2-に育つために評価を体験できる。 ○ DP2-に育つために専門職としてビジネスマナーを実践する。 ○ DP3-に育つために実習施設の役割について説明できる。 ○ DP4-に育つためにあるべき専門職の姿を考察できる。				

《一般教育目標(GIO)》

各理学療法の理論と実践を最終的に統合し、指導者の助言のもと、主体的に治療プログラムを計画し、実施できるようになる。

理学療法士および専門職業人としての適切な態度や行動を身につける。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

担当症例に即した

1. 理学療法評価ができる。
2. 統合と解釈、問題点の抽出、目標設定ができる。
3. 治療プログラムを基本的な範囲で立案できる。
4. 治療プログラムを実施できる。記録・報告が行える。
5. 必要に応じて当初の治療プログラムを変更できる。
6. 専門職業人として適切な態度や行動をとることができる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導報告書70%・実習後セミナー30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした実習としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1		担当症例の《初期評価（対象者・疾患の理解、各種検査測定の実施、記録、統合と解釈）、目標設定、治療プログラムの立案、実施、再評価、最終評価など》を実施
2		指導理学療法士の責任と指導のもとに偏りなく各疾患、各病期、各年齢層の対象者について身体的、心理的、社会的状況を十分に把握
3		疾患から生じるとされる一般的な種々の障害と実際に対象者が示す種々の障害との共通点、相違点に気づかせ、あくまでも対象者の全体像を把握することに努める
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		